



7 故障かな？と思ったときは

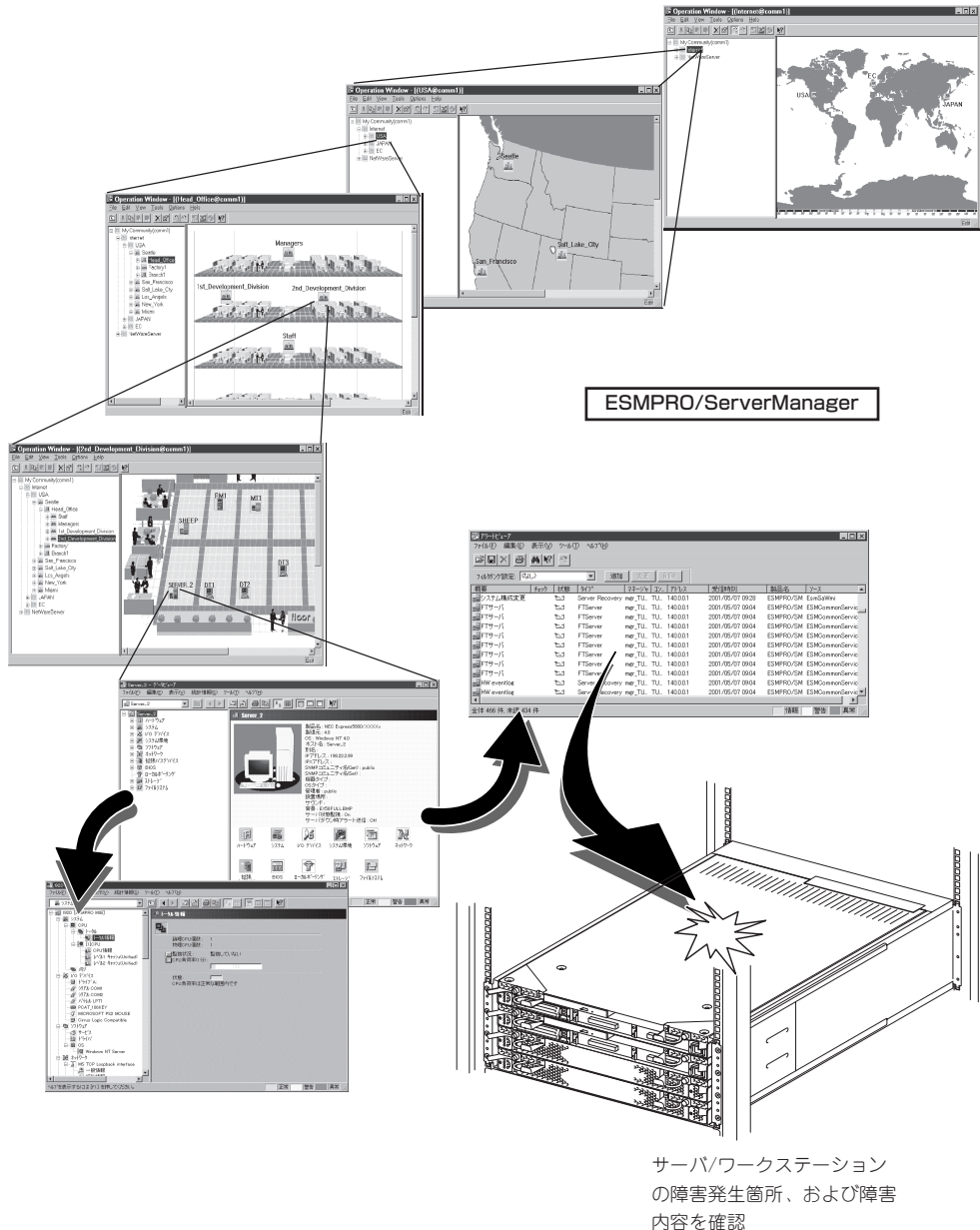
Express5800/ftサーバが思うように動かずに「故障かな？」と思ったときは、故障と疑う前にこの章を参照してください。

障害箇所の切り分け

万一、障害が発生した場合は、ESMPRO/ServerManagerを使って障害の発生箇所を確認し、障害がハードウェアによるものかソフトウェアによるものかを判断します。

障害発生箇所や内容の確認ができれば、故障した部品の交換やシステム復旧などの処置を行います。

障害がハードウェア要因によるものかソフトウェア要因によるものかを判断するには、ESMPRO/ServerManagerが便利です。



エラーメッセージ

Express5800/ftサーバになんらかの異常が起きるとさまざまな形でエラーを通知します。ここでは、エラーメッセージの種類について説明します。

ランプによるエラーメッセージ

Express5800/ftサーバの前面や背面、ハードディスクドライブのハンドル部分にあるランプはさまざまな状態を点灯、点滅、消灯によるパターンや色による表示でユーザーに通知します。「故障かな？」と思ったらランプの表示を確認してください。ランプ表示とその意味については2-13ページの「ランプ」をご覧ください。

液晶ディスプレイからのエラーメッセージ

Express5800/ftサーバの液晶ディスプレイは、Express5800/ftサーバの状態を随時表示します。エラーが起きると液晶ディスプレイにはエラーメッセージが表示されます。液晶ディスプレイに表示されるメッセージとその意味、対処方法について次の表に示します。



重要

本製品は、本体前面に液晶ディスプレイがありませんが、MWAまたはESMPRO/ServerManagerから確認できます。

MWAおよびESMPRO/ServerManagerからの確認方法

- MWA

確認したいサーバを選択して、サーバメニューから[BMCダイアログの起動]を選択してください。BMCダイアログボックス上にサーバの電源状態やステータスLEDの状態とともに液晶ディスプレイの状態が表示されます。

- ESMPRO/ServerManager

統合ビューアから確認したいサーバを選択して、データビューアを起動します。データビューア上で確認できます。

表 示	STATUSランプ		対象モジュール	意 味	対処方法
	色	状態			
= A =					
AmbientTempAlm00	アンバー	点滅	CPUモジュール	温度（下限値）異常警告	保守サービス会社に連絡してください。
AmbientTempAlm02	アンバー	点灯	CPUモジュール	致命的な温度（下限値）異常	
AmbientTempAlm07	アンバー	点滅	CPUモジュール	温度（上限値）異常警告	
AmbientTempAlm09	アンバー	点灯	CPUモジュール	致命的な温度（上限値）異常	
= B =					
BMC Unsync	—	—	PCIモジュール#1	BMCの同期が取れない	保守サービス会社に連絡してください。
BMC0 Not Ready	緑	点滅	PCIモジュール#1	PCIモジュールのBMCが切り離された	しばらく経くようでしたら、保守サービス会社に連絡してください。
BMC1 Not Ready	緑	点滅	PCIモジュール#2		
= C =					
Cor0 +12vAlm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	+12V電圧（下限値）異常警告	保守サービス会社に連絡してください。
Cor0 +12vAlm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な+12V電圧（下限値）異常	
Cor0 +12vAlm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	+12V（上限値）異常警告	
Cor0 +12vAlm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な+12V（上限値）異常	
Cor0 +2.5vAlm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	2.5V電圧（下限値）異常警告	
Cor0 +2.5vAlm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な2.5V電圧（下限値）異常	
Cor0 +2.5vAlm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	2.5V（上限値）異常警告	
Cor0 +2.5vAlm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な2.5V（上限値）異常	
Cor0 +3.3vAlm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	3.3V電圧（下限値）異常警告	

表 示	STATUSランプ		対象モジュール	意 味	対処方法
	色	状態			
= C =					
Cor0 +3.3vAlm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な3.3V電圧 (下限値) 異常	保守サービス会社に連絡してください。
Cor0 +3.3vAlm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	3.3V (上限値) 異常警告	
Cor0 +3.3vAlm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な3.3V (上限値) 異常	
Cor0 +3.3vsAlm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	3.3V電圧 (下限値) 異常警告	
Cor0 +3.3vsAlm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な3.3V電圧 (下限値) 異常	
Cor0 +3.3vsAlm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	3.3V (上限値) 異常警告	
Cor0 +3.3vsAlm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な3.3V (上限値) 異常	
Cor0 +5.0vAlm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	5V電圧 (下限値) 異常警告	
Cor0 +5.0vAlm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な5V電圧 (下限値) 異	
Cor0 +5.0vAlm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	5V (上限値) 異常警告	
Cor0 +5.0vAlm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な5V (上限値) 異常	
Cor0 +5.0vsAlm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	5V電圧 (下限値) 異常警告	
Cor0 +5.0vsAlm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な5V電圧 (下限値) 異常	
Cor0 +5.0vsAlm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	5V (上限値) 異常警告	
Cor0 +5.0vsAlm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な5V (上限値) 異常	
Cor0 -12vAlm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	-12V電圧 (下限値) 異常警告	
Cor0 -12vAlm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な-12V電圧 (下限値) 異	
Cor0 -12vAlm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	-12V (上限値) 異常警告	

表 示	STATUSランプ		対象モジュール	意 味	対処方法
	色	状態			
= C =					
Cor0 -12vAlm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な-12V（上限値）異常	保守サービス会社に連絡してください。
Cor0 Bus PERR 01	緑	点滅	PCIモジュール#1	PCIバスのパリティエラー	
Cor0 Bus SERR 01	緑	点滅	PCIモジュール#1	致命的なPCIバスのエラー	
Cor0 CLK Alm 00	アンバー	点滅	CLOCKボード	クロック（下限値）異常警告	
Cor0 CLK Alm 02	アンバー	点灯	CLOCKボード	致命的なクロック（下限値）異常	
Cor0 CLK Alm 07	アンバー	点滅	CLOCKボード	クロック（上限値）異常警告	
Cor0 CLK Alm 09	アンバー	点灯	CLOCKボード	致命的なクロック（上限値）異常	
Cor0 FAN Alm 01	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	冷却ファン1異常警告	
Cor0 FAN Alm 02	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	冷却ファン2異常警告	
Cor0 FAN Alm 03	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	冷却ファン3異常警告	内部のファンに埃やチリが付着していないことを確認してください。また、内部ファンのケーブルが確実に接続されていることを確認してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
Cor0 FAN Alm 04	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	冷却ファン4異常警告	
Cor0 FAN Alm 05	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	冷却ファン5異常警告	
Cor0 offline	緑	点滅	PCIモジュール#1	PCIモジュールが論理的に切り離されている	
Cor0 removed	緑	点滅	PCIモジュール#1	PCIモジュールが外れている	
Cor0 Temp Alm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	温度（下限値）異常警告	内部のファンに埃やチリが付着していないことを確認してください。また、内部ファンのケーブルが確実に接続されていることを確認してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
Cor0 Temp Alm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な温度（下限値）異常	
Cor0 Temp Alm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	温度（上限値）異常警告	
Cor0 Temp Alm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な温度（上限値）異常	

表 示		STATUSランプ		対象モジュール	意 味	対処方法
		色	状態			
= C =						
Cor1 +12vAlm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	+12V電圧 (下限値) 異常警告	保守サービス会社に連絡してください。	
Cor1 +12vAlm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な+12V電圧 (下限値) 異常		
Cor1 +12vAlm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	+12V (上限値) 異常警告		
Cor1 +12vAlm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な+12V (上限値) 異常		
Cor1 +2.5vAlm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	2.5V電圧 (下限値) 異常警告		
Cor1 +2.5vAlm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な2.5V電圧 (下限値) 異常		
Cor1 +2.5vAlm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	2.5V (上限値) 異常警告		
Cor1 +2.5vAlm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な2.5V (上限値) 異常		
Cor1 +3.3vAlm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	3.3V電圧 (下限値) 異常警告		
Cor1 +3.3vAlm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な3.3V電圧 (下限値) 異常		
Cor1 +3.3vAlm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	3.3V (上限値) 異常警告		
Cor1 +3.3vAlm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な3.3V (上限値) 異常		
Cor1 +3.3vsAlm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	3.3V電圧 (下限値) 異常警告		
Cor1 +3.3vsAlm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な3.3V電圧 (下限値) 異常		
Cor1 +3.3vsAlm07	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	3.3V (上限値) 異常警告		
Cor1 +3.3vsAlm09	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な3.3V (上限値) 異常		
Cor1 +5.0vAlm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	5V電圧 (下限値) 異常警告		
Cor1 +5.0vAlm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な5V電圧 (下限値) 異常		

表 示	STATUSランプ		対象モジュール	意 味	対処方法
	色	状態			
= C =					
Cor1 +5.0vAlm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	5V（上限値）異常警告	保守サービス会社に連絡してください。
Cor1 +5.0vAlm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な5V（上限値）異常	
Cor1 +5.0vsAlm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	5V電圧（下限値）異常警告	
Cor1 +5.0vsAlm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な5V電圧（下限値）異常	
Cor1 +5.0vsAlm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	5V（上限値）異常警告	
Cor1 +5.0vsAlm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な5V（上限値）異常	
Cor1 -12vAlm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	-12V電圧（下限値）異常警告	
Cor1 -12vAlm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な-12V電圧（下限値）異常	
Cor1 -12vAlm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	-12V（上限値）異常警告	
Cor1 -12vAlm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な-12V（上限値）異常	
Cor1 Bus PERR 01	緑	点滅	PCIモジュール#2	PCIバスのパリティエラー	
Cor1 Bus SERR 01	緑	点滅	PCIモジュール#2	致命的なPCIバスのエラー	
Cor1 CLK Alm 00	アンバー	点滅	CLOCKボード	クロック（下限値）異常警告	
Cor1 CLK Alm 02	アンバー	点灯	CLOCKボード	致命的なクロック（下限値）異常	
Cor1 CLK Alm 07	アンバー	点滅	CLOCKボード	クロック（上限値）異常警告	
Cor1 CLK Alm 09	アンバー	点灯	CLOCKボード	致命的なクロック（上限値）異常	
Cor1 FAN Alm 01	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	冷却ファン1異常警告	内部のファンに埃やチリが付着していないことを確認してください。また、内部ファンのケーブルが確実に接続されていることを確認してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
Cor1 FAN Alm 02	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	冷却ファン2異常警告	

表 示	STATUSランプ		対象モジュール	意 味	対処方法
	色	状態			
= C =					
Cor1 FAN Alm 03	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	冷却ファン3異常警告	内部のファンに埃やチリが付着していないことを確認してください。また、内部ファンのケーブルが確実に接続されていることを確認してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
Cor1 FAN Alm 04	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	冷却ファン4異常警告	
Cor1 FAN Alm 05	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	冷却ファン5異常警告	
Cor1 offline	緑	点滅	PCIモジュール#2	PCIモジュールが論理的に切り離されている	切り離されているモジュールを付サーバユーティリティで起動してください。または、モジュールを一度抜いて、再び実装しなおしてください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
Cor1 removed	緑	点滅	PCIモジュール#2	PCIモジュールが外れている	モジュールを一度抜いて、再び実装しなおしてください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
Cor1 Temp Alm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	温度（下限値）異常警告	内部のファンに埃やチリが付着していないことを確認してください。また、内部ファンのケーブルが確実に接続されていることを確認してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
Cor1 Temp Alm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な温度（下限値）異常	
Cor1 Temp Alm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	温度（上限値）異常警告	
Cor1 Temp Alm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な温度（上限値）異常	保守サービス会社に連絡してください。
CPU IERR 00	緑	点滅	CPUモジュール#1	CPU#1内部エラー	
CPU IERR 01	緑	点滅	CPUモジュール#1	CPU#2内部エラー	
CPU IERR 20	緑	点滅	CPUモジュール#2	CPU#1内部エラー	
CPU IERR 21	緑	点滅	CPUモジュール#2	CPU#2内部エラー	
CPU T-Trip 00	緑	点滅	CPUモジュール#1	CPU#1熱変化（上限値）エラー	
CPU T-Trip 01	緑	点滅	CPUモジュール#1	CPU#2熱変化（上限値）エラー	
CPU T-Trip 20	緑	点滅	CPUモジュール#2	CPU#1熱変化（上限値）エラー	
CPU T-Trip 21	緑	点滅	CPUモジュール#2	CPU#2熱変化（上限値）エラー	
CPU0 +12ss Alm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	+12V電圧（下限値）異常警告	

表 示	STATUSランプ		対象モジュール	意 味	対処方法
	色	状態			
= C =					
CPU0 +12ss ALm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な+12V電圧 (下限値) 異常	保守サービス会社に連絡してください。
CPU0 +12ss ALm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	+12V (上限値) 異常警告	
CPU0 +12ss ALm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な+12V (上限値) 異常	
CPU0 +12vAlm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	+12V電圧 (下限値) 異常警告	
CPU0 +12vAlm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な+12V電圧 (下限値) 異常	
CPU0 +12vAlm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	+12V (上限値) 異常警告	
CPU0 +12vAlm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な+12V (上限値) 異常	
CPU0 +1.5vAlm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	1.5V電圧 (下限値) 異常警告	
CPU0 +1.5vAlm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な1.5V電圧 (下限値) 異常	
CPU0 +1.5vAlm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	1.5V (上限値) 異常警告	
CPU0 +1.5vAlm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な1.5V (上限値) 異常	
CPU0 +2.5vAlm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	2.5V電圧 (下限値) 異常警告	
CPU0 +2.5vAlm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な2.5V電圧 (下限値) 異常	
CPU0 +2.5vAlm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	2.5V (上限値) 異常警告	
CPU0 +2.5vAlm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な2.5V (上限値) 異常	
CPU0 +2.5VcAlm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	2.5V電圧 (下限値) 異常警告	
CPU0 +2.5VcAlm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な2.5V電圧 (下限値) 異常	
CPU0 +2.5VcAlm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	2.5V (上限値) 異常警告	

表 示	STATUSランプ		対象モジュール	意 味	対処方法
	色	状態			
= C =					
CPU0 +2.5VcAlm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な2.5V（上限値）異常	保守サービス会社に連絡してください。
CPU0 +3.3vAlm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	3.3V電圧（下限値）異常警告	
CPU0 +3.3vAlm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な3.3V電圧（下限値）異常	
CPU0 +3.3vAlm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	3.3V（上限値）異常警告	
CPU0 +3.3vAlm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な3.3V（上限値）異常	
CPU0 +3.3vsAlm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	3.3V電圧（下限値）異常警告	
CPU0 +3.3vsAlm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な3.3V電圧（下限値）異常	
CPU0 +3.3vsAlm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	3.3V（上限値）異常警告	
CPU0 +3.3vsAlm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な3.3V（上限値）異常	
CPU0 +5.0vAlm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	5V電圧（下限値）異常警告	
CPU0 +5.0vAlm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な5V電圧（下限値）異常	
CPU0 +5.0vAlm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	5V（上限値）異常警告	
CPU0 +5.0vAlm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な5V（上限値）異常	
CPU0 +5.0vsAlm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	5V電圧（下限値）異常警告	
CPU0 +5.0vsAlm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な5V電圧（下限値）異常	
CPU0 +5.0vsAlm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	5V（上限値）異常警告	
CPU0 +5.0vsAlm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な5V（上限値）異常	
CPU0 broken	緑	点滅	CPUモジュール#1	CPUモジュール故障	

表 示	STATUSランプ		対象モジュール	意 味	対処方法
	色	状態			
= C =					
CPU0 FAN ALm 01	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	冷却ファン1異常警告	内部のファンに埃やチリが付着していないことを確認してください。また、内部ファンのケーブルが確実に接続されていることを確認してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
CPU0 FAN ALm 03	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	冷却ファン2異常警告	
CPU0 FAN ALm 04	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	冷却ファン3異常警告	
CPU0 offline	緑	点滅	CPUモジュール#1	CPUモジュールが論理的に切り離されている	切り離されているモジュールをサーバーバレーティティで起動してください。または、モジュールを一度抜いて、再び実装しなおしてください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
CPU0 removed	緑	点滅	CPUモジュール#1	CPUモジュールが外れている	モジュールを一度抜いて、再び実装しなおしてください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
CPU0 Temp ALm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	温度（下限値）異常警告	内部のファンに埃やチリが付着していないことを確認してください。また、内部ファンのケーブルが確実に接続されていることを確認してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
CPU0 Temp ALm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な温度（下限値）異常	
CPU0 Temp ALm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	温度（上限値）異常警告	
CPU0 Temp ALm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な温度（上限値）異常	保守サービス会社に連絡してください。
CPU0 VccpAlm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	CPU動作電圧（下限値）異常(VCCP)警告	
CPU0 VccpAlm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的なCPU動作電圧（下限値）異常(VCCP)	
CPU0 VccpAlm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	CPU動作電圧（上限値）異常(VCCP)警告	保守サービス会社に連絡してください。
CPU0 VccpAlm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的なCPU動作電圧（下限値）異常(VCCP)	
CPU0 Vtt ALm 00	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	1.25V電圧（下限値）異常警告	
CPU0 Vtt ALm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な1.25V電圧（下限値）異常	保守サービス会社に連絡してください。
CPU0 Vtt ALm 07	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	1.25V（上限値）異常警告	
CPU0 Vtt ALm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な1.25V（上限値）異常	

表 示	STATUSランプ		対象モジュール	意 味	対処方法
	色	状態			
= C =					
CPU00 Temp Al m 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	CPU#1の温度 (下限値) 異常警告	内部のファンに埃やチリが付着していないことを確認してください。 また、内部ファンのケーブルが確実に接続されていることを確認してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
CPU00 Temp Al m 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的なCPU#1の温度 (下限値) 異常	
CPU00 Temp Al m 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	CPU#1の温度 (上限値) 異常警告	
CPU00 Temp Al m 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的なCPU#1の温度 (上限値) 異常	
CPU01 Temp Al m 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	CPU#2の温度 (下限値) 異常警告	
CPU01 Temp Al m 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的なCPU#2の温度 (下限値) 異常	
CPU01 Temp Al m 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	CPU#2の温度 (上限値) 異常警告	
CPU01 Temp Al m 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的なCPU#2の温度 (上限値) 異常	
CPU2 +12 ss Al m 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	+12V電圧 (下限値) 異常警告	
CPU2 +12 ss Al m 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な+12V電圧 (下限値) 異常	
CPU2 +12 ss Al m 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	+12V (上限値) 異常警告	
CPU2 +12 ss Al m 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な+12V (上限値) 異常	
CPU2 +12 v Al m 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	+12V電圧 (下限値) 異常警告	
CPU2 +12 v Al m 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な+12V電圧 (下限値) 異常	
CPU2 +12 v Al m 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	+12V (上限値) 異常警告	
CPU2 +12 v Al m 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な+12V (上限値) 異常	
CPU2 +1.5 v Al m 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	1.5V電圧 (下限値) 異常警告	
CPU2 +1.5 v Al m 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な1.5V電圧 (下限値) 異常	

表 示	STATUSランプ		対象モジュール	意 味	対処方法
	色	状態			
= C =					
CPU2 +1.5vAlm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	1.5V（上限値）異常警告	保守サービス会社に連絡してください。
CPU2 +1.5vAlm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な1.5V（上限値）異常	
CPU2 +2.5vAlm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	2.5V電圧（下限値）異常警告	
CPU2 +2.5vAlm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な2.5V電圧（下限値）異常	
CPU2 +2.5vAlm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	2.5V（上限値）異常警告	
CPU2 +2.5vAlm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な2.5V（上限値）異常	
CPU2 +2.5VcAlm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	2.5V電圧（下限値）異常警告	
CPU2 +2.5VcAlm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な2.5V電圧（下限値）異常	
CPU2 +2.5VcAlm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	2.5V（上限値）異常警告	
CPU2 +2.5VcAlm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な2.5V（上限値）異常	
CPU2 +3.3vAlm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	3.3V電圧（下限値）異常警告	
CPU2 +3.3vAlm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な3.3V電圧（下限値）異常	
CPU2 +3.3vAlm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	3.3V（上限値）異常警告	
CPU2 +3.3vAlm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な3.3V（上限値）異常	
CPU2 +3.3vsAlm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	3.3V電圧（下限値）異常警告	
CPU2 +3.3vsAlm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な3.3V電圧（下限値）異常	
CPU2 +3.3vsAlm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	3.3V（上限値）異常警告	
CPU2 +3.3vsAlm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な3.3V（上限値）異常	

表 示		STATUSランプ		対象モジュール	意 味	対処方法
		色	状態			
= C =						
CPU2 +5.0vAlm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	5V電圧 (下限値) 異常警告	保守サービス会社に連絡してください。	
CPU2 +5.0vAlm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な5V電圧 (下限値) 異常		
CPU2 +5.0vAlm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	5V (上限値) 異常警告		
CPU2 +5.0vAlm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な5V (上限値) 異常		
CPU2 +5.0vsAlm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	5V電圧 (下限値) 異常警告		
CPU2 +5.0vsAlm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な5V電圧 (下限値) 異常		
CPU2 +5.0vsAlm07	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	5V (上限値) 異常警告		
CPU2 +5.0vsAlm09	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な5V (上限値) 異常		
CPU2 broken	緑	点滅	CPUモジュール#2	CPUモジュール故障		
CPU2 FAN Alm 01	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	冷却ファン1異常警告	内部のファンに埃やチリが付着していないことを確認してください。また、内部ファンのケーブルが確実に接続されていることを確認してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください。	
CPU2 FAN Alm 03	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	冷却ファン2異常警告		
CPU2 FAN Alm 04	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	冷却ファン3異常警告		
CPU2 offline	緑	点滅	CPUモジュール#2	CPUモジュールが論理的に切り離されている		
CPU2 removed	緑	点滅	CPUモジュール#2	CPUモジュールが外れている	モジュールを一度抜いて、再び実装しなおしてください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください。	
CPU2 Temp Alm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	温度 (下限値) 異常警告		
CPU2 Temp Alm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な温度 (下限値) 異常		
CPU2 Temp Alm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	温度 (上限値) 異常警告		
CPU2 Temp Alm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な温度 (上限値) 異常	内部のファンに埃やチリが付着していないことを確認してください。また、内部ファンのケーブルが確実に接続されていることを確認してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください。	

表 示	STATUSランプ		対象モジュール	意 味	対処方法
	色	状態			
= C =					
CPU2 VccpAlm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	CPU動作電圧（下限値）異常(VCCP)警告	保守サービス会社に連絡してください。
CPU2 VccpAlm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的なCPU動作電圧（下限値）異常(VCCP)	
CPU2 VccpAlm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	CPU動作電圧（上限値）異常(VCCP)警告	
CPU2 VccpAlm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的なCPU動作電圧（上限値）異常(VCCP)	
CPU2 Vtt Alm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	1.25V電圧（下限値）異常警告	
CPU2 Vtt Alm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な1.25V電圧（下限値）異常	
CPU2 Vtt Alm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	1.25V（上限値）異常警告	
CPU2 Vtt Alm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な1.25V（上限値）異常	
CPU20 Temp Alm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	CPU#1の温度（下限値）異常警告	内部のファンに埃やチリが付着していないことを確認してください。また、内部ファンのケーブルが確実に接続されていることを確認してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
CPU20 Temp Alm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的なCPU#1の温度（下限値）異常	
CPU20 Temp Alm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	CPU#1の温度（上限値）異常警告	
CPU20 Temp Alm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的なCPU#1の温度（上限値）異常	
CPU21 Temp Alm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	CPU#2の温度（下限値）異常警告	
CPU21 Temp Alm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的なCPU#2の温度（下限値）異常	
CPU21 Temp Alm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	CPU#2の温度（上限値）異常警告	
CPU21 Temp Alm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的なCPU#2の温度（上限値）異常	

表 示	STATUSランプ		対象モジュール	意 味	対処方法
	色	状態			
= D =					
DUMP Request !	消灯		—	DUMPスイッチ要求	保守サービス会社に連絡してください。
= F =					
FRB processing	消灯		—	POST実行中/OS起動中	正常動作しています。
= M =					
Memory U-Err 01	緑	点滅	CPUモジュール#1	DIMM#1の2Bitエラー	DIMM交換が必要です。保守サービス会社に連絡してください。
Memory U-Err 02	緑	点滅	CPUモジュール#1	DIMM#2の2Bitエラー	
Memory U-Err 03	緑	点滅	CPUモジュール#1	DIMM#3の2Bitエラー	
Memory U-Err 04	緑	点滅	CPUモジュール#1	DIMM#4の2Bitエラー	
Memory U-Err 05	緑	点滅	CPUモジュール#1	DIMM#5の2Bitエラー	
Memory U-Err 06	緑	点滅	CPUモジュール#1	DIMM#6の2Bitエラー	
Memory U-Err 21	緑	点滅	CPUモジュール#2	DIMM#1の2Bitエラー	
Memory U-Err 22	緑	点滅	CPUモジュール#2	DIMM#2の2Bitエラー	
Memory U-Err 23	緑	点滅	CPUモジュール#2	DIMM#3の2Bitエラー	
Memory U-Err 24	緑	点滅	CPUモジュール#2	DIMM#4の2Bitエラー	
Memory U-Err 25	緑	点滅	CPUモジュール#2	DIMM#5の2Bitエラー	
Memory U-Err 26	緑	点滅	CPUモジュール#2	DIMM#6の2Bitエラー	
= O =					
OS shutdown Alm	消灯		—	ウォッチドックタイマのタイムアウトによるシャットダウン（致命的）	保守サービス会社に連絡してください。
= P =					
Power Off	消灯		—	DC OFFの状態	—

表 示	STATUSランプ		対象モジュール	意 味	対処方法
	色	状態			
= S =					
SSR processing	消灯		—	リカバリーブート中	DUMP採取中です。
= W =					
WDT timeout	消灯		—	ウォッチドックタイムのタイムアウト発生 (致命的)	保守サービス会社に連絡してください。

POST中のエラーメッセージ

Express5800/ftサーバの電源をONにすると自動的に実行される自己診断機能「POST」中に何らかの異常を検出すると、ディスプレイ装置の画面にエラーメッセージが表示されます(場合によってはその対処方法も表示されます)。次の表に、画面に表示されるメッセージとその意味、対処方法を示します。

キーボードコントローラのエラーを示すメッセージ

```
Phoenix BIOS 4.0 Release 6.0.XXXX
:
CPU=Pentium III Processor XXX MHz
0640K System RAM Passed
0127M Extended RAM Passed
WARNING
0212: Keybord Controller Failed.
:
Press <F1> to resume, <F2> to setup
```



以下に記載されているPOSTのエラーメッセージ一覧はExpress5800/ftサーバ単体のものです。マザーボードに接続されているオプションのSCSIコントローラボードなどに搭載されているBIOSのエラーメッセージとその対処方法についてはオプションに添付の説明書を参照してください(Express5800/ftサーバのマザーボードにSCSIコントローラが搭載されている場合はこれらのメッセージも含まれています)。

ディスプレイ上のエラーメッセージ	意 味	原因	対処方法
0200 Failure Fixed Disk	ハードディスクエラー。	(a) セットアップメニューの設定ミスです。 (b) ハードディスクが故障しています。 (c) CPUモジュールボードが故障しています。 (d) PCIモジュールボードが故障しています。	(a) セットアップメニューの設定を調べてください。 (b) ハードディスクを交換してください。 (c) CPUモジュールボードを交換してください。 (d) PCIモジュールボードを交換してください。
0210 Stuck Key	キーボード接続エラー。	キーボードの接続不良です。	(a) キーボードを接続し直してください。 (b) キーボードを交換してください。 (c) PCIモジュールボードを交換してください。
0211 Keyboard error	キーボードエラー。	キーボードが故障しています。	(a) キーボードの接続状態を確認してください。 (b) サーバを再起動させてください。
0212 Keyboard Controller Failed	キーボードコントローラエラー。	キーボードコントローラが故障しています。	(c) PCIモジュールボードを交換してください。
0213 Keyboard locked - Unlock key switch	キーボードがロックされている。	キーボードがロックされています。	キースwitchのロックを解除してください。
0220 Monitor type does not match CMOS - Run SETUP	モニタの種類がCMOSと合っていない。	モニタ種類の設定ミスです。	(a) セットアップメニューからGet Default Valueを選んでください。 (b) CMOSをクリアしてください。

故障かな?と思ったときは

ディスプレイ上のエラーメッセージ		意 味	原因	対処方法
0230	System RAM Failed at offset	システムRAMのエラー。	DIMMが故障しています。	(a) DIMMを交換してください。 (b) CPUモジュールボードを交換してください。
0231	Shadow RAM Failed at offset	Shadow RAMのエラー。	DIMMが故障しています。	(a) DIMMを交換してください。 (b) CPUモジュールボードを交換してください。
0232	Extend RAM Failed at address line	拡張RAMのエラー。	DIMMが故障しています。	(a) DIMMを交換してください。 (b) CPUモジュールボードを交換してください。
0233	Memory type mixing detected	メモリの種類が混在している。	違う種類のDIMMがインストールされています。	弊社の推奨するDIMMに交換してください。
0234	Single - bit ECC error	1ビットECCエラー。	DIMMが故障しています。	(a) DIMMを交換してください。 (b) CPUモジュールボードを交換してください。
0235	Multiple - bit ECC error	2ビットECCエラー。	DIMMが故障しています。	(a) DIMMを交換してください。 (b) CPUモジュールボードを交換してください。
0250	System battery is dead - Replace and run SETUP	システムバッテリー寿命。	NvRAMのバッテリーが寿命です。	PCIモジュールボードを交換してください。
0251	System CMOS checksum bad-Default configuration used	CMOSのチェックサムエラー。	NvRAMが故障しています。	(a) セットアップメニューを再設定してください。 (b) PCIモジュールボードを交換してください。
0252	Password checksum bad - Password cleared	パスワードのチェックサムエラー。	NvRAMが故障しています。	(a) セットアップメニューでパスワードを再設定してください。 (b) PCIモジュールボードを交換してください。
0260	System timer error	システムタイマのエラー。	PCIモジュールボードが故障しています。	PCIモジュールボードを交換してください。
0270	Real time clock error	RTCエラー。	RTCが故障しています。	PCIモジュールボードを交換してください。
0271	Check date and time setting	日付と時刻の設定が不正。	RTCの日付と時刻設定が故障しています。	(a) セットアップメニューで日付と時刻を設定してください。 (b) PCIモジュールボードを交換してください。
0280	Previous boot incomplete - Default configuration used	前回の起動が正常に終了していない。	セットアップメニューの設定ミスです。	セットアップメニューの設定を確認してください。
02B0	Diskette drive A error	フロッピーディスクドライブAのエラー。	フロッピーディスクドライブAのエラーです。	フロッピーディスクドライブAを交換してください。
02B2	Incorrect Drive A type - run SETUP	ドライブAの種類が間違っている。	セットアップメニューの設定ミスです。	セットアップメニューを設定してください。
02D0	System cache error - Cache disabled	CPUキャッシュのエラー。	(a) CPUが故障しています。 (b) CPUモジュールボードが故障しています。	(a) CPUを交換してください。 (b) CPUモジュールボードを交換してください。
0B1B	PCI System Error on Bus/Device/Function	PCIバスのシステムエラー。	PCIデバイスが故障しています。	(a) PCIデバイスボードを交換してください。 (b) PCIデバイスボードをもう一度取り付け直してください。
0B1C	PCI Parity Error on Bus/Device/Function	PCIバスのパリティエラー。	PCIデバイスが故障しています。	(c) PCIデバイスボードの設定をやり直してください。
0B22	CPUs are installed out of order	CPUの故障。	CPUが故障しています。	CPUを交換してください。

ディスプレイ上のエラーメッセージ		意 味	原因	対処方法
0B28	Unsupported Processor detected on Processor 1	未サポートのプロセッサ (CPU) を取り付けられている	未サポートのプロセッサ (CPU) がProcessor 1に取り付けられています。	本装置がサポートしているCPUに交換してください。
0B29	Unsupported Processor detected on Processor 2	未サポートのプロセッサ (CPU) を取り付けられている	未サポートのプロセッサ (CPU) がProcessor 2に取り付けられています。	本装置がサポートしているCPUに交換してください。
0B30	CPU FAN #1 Alarm occurred	ファンのエラー。	(a) ファンの中にゴミがたまっています。 (b) ファンが故障しています。 (c) CPUモジュールボードが故障しています。	(a) ファンを交換してください。 (b) CPUモジュールボードを交換してください。 (c) ファンのケーブルを正しく接続してください。
0B31	CPU FAN #2 Alarm occurred			
0B32	CPU FAN #3 Alarm occurred	ファンのエラー。	(a) ファンの中にゴミがたまっています。 (b) ファンが故障しています。 (c) CPUモジュールボードが故障しています。	(a) ファンを交換してください。 (b) CPUモジュールボードを交換してください。 (c) ファンのケーブルを正しく接続してください。
0B40	Invalid System Configuration Data	機器構成システムの故障。	CPU/PCIモジュールボードが故障しています。	CPU/PCIモジュールボードを交換してください。
0B41	System Configuration Data Read error	システム構成データのリードエラー。	CPU/PCIモジュールボードが故障しています。	CPU/PCIモジュールボードを交換してください。
0B42	Resource Conflict	PCIリソース構成の不正。	SETUPの設定ミスです。	SETUPで機器構成を設定し直してください。
0B43	Warning: IRQ not configured	PCI INT構成の不正。	SETUPの設定ミスです。	SETUPで設定し直してください。
0B44	Expansion Rom not initialized	拡張ROM初期化中のエラー。	SETUPの設定ミスです。	SETUPで必要ないオプションのPCIカードの拡張ROMの展開を禁止してください。
0B45	System Configuration Data Write error	システム構成データのライトエラー。	CPU/PCIモジュールボードが故障しています。	CPU/PCIモジュールボードを交換してください。
0B47	Missing date and time synchronization	日時の同期処理に失敗し、不正となっている。	BMC間通信異常により日時の設定が壊れています。	(a) システムを再起動してください。 (b) SETUPで日時を設定し直してください。 それでも直らない場合はPCIモジュールボードを交換してください。
0B49	BMC issued Reset Command, but failed System Reset	BMCによるシステムリセットが機能しない。	BMCのリセットコマンドがきかず、システムをリセットできません。	PCIモジュールボードを交換してください。

ディスプレイ上のエラーメッセージ	意 味	原因	対処方法
0B6E DIMMs are installed out of order	DIMMの故障。	DIMMが故障しています。	DIMMを交換してください。
0B70 The error occurred during temperature sensor reading	温度情報取得中にエラーが発生。	(a) SMBusが故障しています。 (b) 温度センサが故障しています。	CPU/PCIモジュールボードかバックパネルボードを交換してください。
0B71 System temperature out of Range	システム内温度が異常。	(a) システムを運用する環境温度が規定温度範囲外です。 (b) ファンが故障しています。 (c) CPU/PCIモジュールボードが故障しています。	(a) セットアップメニューの設定を確認してください。 (b) ファンを掃除してください。 (c) ファンを交換してください。 (d) CPU/PCIモジュールボードを交換してください。
0B80 BMC Memory Test Failed	BMCデバイスの故障。 BMCアクセスでの故障。	BMCが故障しています。	POモジュールボードを交換してください。
0B81 BMC Firmware Code Area CRC check failed			
0B82 BMC core Hardware failure			
0B83 BMC IBF or OBF check failed			
0B90 BMC Platform Information Area corrupted	BMCデバイスの故障。	BMCが故障しています。	POモジュールボードを交換してください。
0B91 BMC update firmware corrupted			
0B92 Internal Use Area of BMC FRU corrupted	SROMのシャージ情報のエラー。	(a) SROMが故障しています。 (b) BMCが故障しています。	(a) バックパネルボードを交換してください。 (b) PCIモジュールボードを交換してください。
0B93 BMC SDR Repository empty	BMCデバイスの故障。	BMCが故障しています。	POモジュールボードを交換してください。
0B94 IPMB signal lines do not respond	SMCの故障。		
0B95 BMC FRU device failure	SROMのシャージ情報の故障。		
0B96 BMC SDR Repository failure	BMCデバイスの故障。		
0B97 BMC SEL device failure			
0B98 BMC SEL Overflow	SELのオーバーフロー。	SEL (システムイベントログ) がオーバーフローを起こしています。	必要のないSELを削除してください。
0BB0 SMBIOS - SROM data read error	SROM読み取り中のエラー。	(a) SROMが故障しています。 (b) バックパネルボードが故障しています。	バックパネルボードを交換してください。
0BB1 SMBIOS - SROM data checksum bad	SROMのチェックサムのエラー。		
0BD0 1st SMBus device address not acknowledged	PCIモジュールボード #1上のSMBusの故障。	各ボードが故障しています。	(a) ケーブルの接続を確認してください。 (b) 各ボードを交換してください。
0BD1 1st SMBus device Error detected			
0BD2 1st SMBus timeout			

ディスプレイ上のエラーメッセージ		意 味	原因	対処方法
0BD3	2nd SMBus device address not acknowledged	CPUモジュールボード#1のSMBusの故障。	各ボードが故障しています。	(a) ケーブルの接続を確認してください。 (b) 各ボードを交換してください。
0BD4	2nd SMBus device Error detected			
0BD5	2nd SMBus timeout			
0BD6	3rd SMBus device address not acknowledged	本装置では、3rd SMBusは未使用のため表示されません。		
0BD7	3rd SMBus device Error detected			
0BD8	3rd SMBus timeout			
0BD9	4th SMBus device address not acknowledged	CPUモジュールボード#2のSMBusの故障。		
0BDA	4th SMBus device Error detected			
0BDB	4th SMBus timeout			
0BDC	5th SMBus device address not acknowledged	本装置では、5th SMBusは未使用のため表示されません。		
0BDD	5th SMBus device Error detected			
0BDE	5th SMBus timeout			
0BDF	6th SMBus device address not acknowledged	本装置では、6th SMBusは未使用のため表示されません。		
0BE0	6th SMBus device Error detected			
0BE1	6th SMBus timeout			
0BE2	7th SMBus device address not acknowledged	バックパネルボード上のSMBusの故障。		
0BE3	7th SMBus device Error detected			
0BE4	7th SMBus timeout			
0BE5	8th SMBus device address not acknowledged	PCIモジュールボード#2上のSMBusの故障。		
0BE6	8th SMBus device Error detected			
0BE7	8th SMBus timeout			
0BF0	Vendor ID cannot be retrieved from BP IDPROM	バックパネルボードのSROMからベンダIDの取り出しに失敗した。	バックパネルボードの故障です。	バックパネルボードを交換してください。
0BF1	System Structure cannot be retrieved from BP IDPROM	バックパネルボードのSROMからシステム構成の取り出しに失敗した。	バックパネルボードの故障です。	バックパネルボードを交換してください。
0C00	Rompilot reports error number xx	Rompilot初期化中のエラー。	(a) SETUPの設定ミスです。 (b) CPU/PCIモジュールボードが故障しています。	(a) Rompilotを再構成してください。 (b) CPU/PCIモジュールボードを交換してください。
8600	No working DQS value found	DQS未検出。	(a) DIMMが故障しています。 (b) 未サポートのDIMMです。	(a) DIMMを交換してください。 (b) 弊社の推奨するDIMMに交換してください。

ディスプレイ上のエラーメッセージ		意 味	原因	対処方法
8610	MAC Address update failed - CoreI/O#0 10/100Mbit Ethernet Controller	PCIモジュールボード #1のオンボード上の10/100Mbit Ethernet ControllerへのMAC Address設定処理に失敗。	MAC Address設定時、FRB2 Timeoutが発生し、書き換えに失敗しました。	(a) バックパネルボードを交換してください。 (b) PCIモジュールボード#1を交換してください。
8611	MAC Address update failed - CoreI/O#0 Gbit Ethernet Controller	PCIモジュールボード #1のオンボード上のGbit Ethernet ControllerへのMAC Address設定処理に失敗。	MAC Address設定時、FRB2 Timeoutが発生し、書き換えに失敗しました。	(a) バックパネルボードを交換してください。 (b) PCIモジュールボード#1を交換してください。
8612	MAC Address update failed - CoreI/O#1 10/100Mbit Ethernet Controller	PCIモジュールボード #2のオンボード上の10/100Mbit Ethernet ControllerへのMAC Address設定処理に失敗。	MAC Address設定時、FRB2 Timeoutが発生し、書き換えに失敗しました。	(a) バックパネルボードを交換してください。 (b) PCIモジュールボード#2を交換してください。
8613	MAC Address update failed - CoreI/O#1 Gbit Ethernet Controller	PCIモジュールボード #2のオンボード上のGbit Ethernet ControllerへのMAC Address設定処理に失敗。	MAC Address設定時、FRB2 Timeoutが発生し、書き換えに失敗しました。	(a) バックパネルボードを交換してください。 (b) PCIモジュールボード#2を交換してください。

ビープ音によるエラー通知

POST中のエラーを検出しても、ディスプレイ装置の画面にエラーメッセージを表示できない場合があります。この場合は、一連のビープ音でエラーが発生したことを通知します。エラーはビープ音のいくつかの音の組み合わせでその内容を通知します。

たとえば、ビープ音が1回、連続して3回、1回、1回の組み合わせで鳴った(ビープコード：1-3-1-1)ときはDRAMリフレッシュテストエラーが起きたことを示します。

次にビープコードとその意味、対処方法を示します。

ビープコード	意 味	対処方法
1-2-2-3	ROMチェックサムエラー	保守サービス会社に連絡して、CPUモジュールボードを交換してください。
1-1-2-4	ROMEXECコードエラー	DIMMの取り付け状態を確認してください。それでも、直らない場合は保守サービス会社に連絡して、DIMM、CPUモジュールボードを交換してください。
1-3-1-1	DRAMリフレッシュテストエラー	
1-3-1-3	キーボードコントローラエラー	キーボードを接続し直してください。それでも、直らない場合は保守サービス会社に連絡して、CPUモジュールボードを交換してください。
1-3-3-1	メモリを検出できない。あるいは、DIMMのタイプが異なる	DIMMの取り付け状態を確認してください。それでも、直らない場合は保守サービス会社に連絡して、DIMM、CPUモジュールボードを交換してください。
1-3-3-2	POST Memory Managerの初期設定エラー	
1-3-4-1	RAMアドレスエラー	DIMMの取り付け状態を確認してください。それでも、直らない場合は保守サービス会社に連絡して、DIMM、CPUモジュールボードを交換してください。
1-3-4-3	RAM LOWバイトデータエラー	
1-4-1-1	RAM HIGHバイトデータエラー	
2-2-3-1	不正割り込みテストエラー	保守サービス会社に連絡してください。
2-1-2-3	COPYRIGHTチェックエラー	
1-2	VIDEO BIOSの初期化エラー	ディスプレイ装置になにも表示されない場合は、ディスプレイのコネクタの取り付け状態を確認してください。それでも、直らない場合は保守サービス会社に連絡して、CPUモジュールボードを交換してください。増設したPCIボードのオプションROMの展開が表示されない場合は、PCIボードの取り付け状態を確認してください。それでも直らない場合は、保守サービス会社に連絡して、CPUモジュールボード、PCIモジュールボード、増設したPCIボードを交換してください。
	オプションROM初期化エラー	
	オプションROM展開エラー	

故障かな?と思ったときは

Windows Server 2003のエラーメッセージ

Windows Server 2003の起動後に致命的なエラー（STOPエラーやシステムエラー）が起きるとディスプレイ装置の画面がブルーに変わり、エラーに関する詳細なメッセージが表示されます。

画面のバックグラウンドの色は「ブルー」

STOP : C000021A (FATAL SYSTEM ERROR)

The Windows logon process.. System process terminated.

**Unexpectedly with a status of 0x00000001
(0x00000000 0x00000000).**

The system has been shutdown.

crashdump : initializing miniport driver

crashdump : dumping physical memory to disk

画面に表示されたメッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。また、このエラーが起きるとExpress5800/ftサーバは自動的にメモリダンプを実行し任意のディレクトリにメモリダンプのデータを保存します（「メモリダンプ（デバッグ情報）」の設定（別冊のユーザーズガイド（セットアップ編）の4-41ページ参照）。のちほど保守サービス会社の保守員からこのデータを提供していただくよう依頼される場合があります。DATなどのメディアにファイルをコピーして保守員に渡せるよう準備しておいてください。



重要

STOPエラーやシステムエラーが発生しシステムを再起動したとき、仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示されることがありますが、そのまま起動してください。



チェック

このファイルをメディアにコピーする前に、イベントビューアを起動して、システムイベントログでSave Dumpのイベントログが記録され、メモリダンプが保存されたことを確認してください。

使用中に「システムの仮想メモリが不足しています。システムのメモリを増やすかアプリケーションを終了して下さい。」と表示される場合があります。このメッセージが表示された場合は、以下のことを行ってください。

1. 物理メモリを追加する。
2. ページファイルの設定を変更する（物理メモリ容量×1.5以上に変更する）。

このほかにもディスクやネットワーク、プリンタなど内蔵デバイスや周辺機器にエラーが起きた場合にも警告メッセージが表示されます。メッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。

故障かな?と思ったときは

[illegible]

全体18件 未読3件

トラブルシューティング

Express5800/ftサーバが思うように動作しない場合は修理に出す前に次のチェックリストの内容に従ってExpress5800/ftサーバをチェックしてください。リストにある症状に当てはまる項目があるときは、その後の確認、処理に従ってください。

それでも正常に動作しない場合は、ディスプレイ装置の画面に表示されたメッセージを記録してから、保守サービス会社に連絡してください。

Express5800/ftサーバについて



電源がONにならない

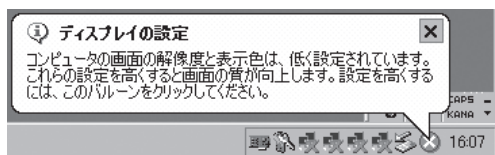
- ☐ 電源がExpress5800/ftサーバに正しく供給されていますか？
 - 電源コードがExpress5800/ftサーバの電源規格に合ったコンセント（またはUPS）に接続されていることを確認してください。
 - 本体に添付の2本の電源コードが正しく接続されていることを確認してください。
 - Express5800/ftサーバに添付の電源コードを使用してください。また、電源コードの被覆が破れていたり、プラグ部分が折れていたりしていないことを確認してください。
 - 接続したコンセントのブレーカがONになっていることを確認してください。
 - UPSに接続している場合は、UPSの電源がONになっていること、およびUPSから電力が出力されていることを確認してください。詳しくはUPSに添付の説明書を参照してください。
また、Express5800/ftサーバのBIOSセットアップユーティリティでUPSとの電源連動機能の設定ができます。
<確認するメニュー: 「System Hardware」→「AC-LINK」→「Power On」>
- ☐ POWERスイッチを押しましたか？
 - Express5800/ftサーバ前面に2つのPOWERスイッチがありますが、POWERスイッチのランプが点灯しているほうのPOWERスイッチを押して電源をONにしてください。
- ☐ CPU/PCIモジュールは正しく取り付けられていますか？
 - Express5800/ftサーバにCPU/PCIモジュールが正しく取り付けられていることを確認してください。CPU/PCIモジュールはハンドルにあるネジで確実に固定してください。



画面右下に「ディスプレイの設定」が表示される

- 次の[画面の色]設定を「中(16ビット)」以上に変更してください。

[画面のプロパティ]－[設定]タブ－[画面の色]





OS Boot中にブルー画面になる

- BIOS設定の[Boot Monitoring]で設定した値までそのままお待ちください。自動的にBoot pairを切り替えて再起動しOSが起動します。
- もう一方のPCIモジュールのハードディスクドライブから起動してください。



電源がOFFにならない

- ☐ POWERスイッチの機能を無効にしていますか？
 - いったんExpress5800/ftサーバを再起動して、BIOSセットアップユーティリティを起動してください。
 - <確認するメニュー:「Security」→「Power Switch Mask」→「Unmasked」>



POSTが終わらない

- ☐ メモリが正しく搭載されていますか？
 - 最低1組(2枚)のDIMMが搭載されていないと動作しません。
- ☐ 大容量のメモリを搭載していますか？
 - 搭載しているメモリサイズによってはメモリチェックで時間がかかる場合があります。しばらくお待ちください。
- ☐ Express5800/ftサーバの起動直後にキーボードやマウスを操作していませんか？
 - 起動直後にキーボードやマウスを操作すると、POSTは誤ってキーボードコントローラの異常を検出し、処理を停止してしまうことがあります。そのときはもう一度、起動し直してください。また、再起動直後は、BIOSの起動メッセージなどが表示されるまでキーボードやマウスを使って操作しないよう注意してください。
- ☐ Express5800/ftサーバで利用できるメモリ・PCIカードを搭載していますか？
 - 弊社が指定する機器以外は動作の保証はできません。



デバイス(内蔵・外付け)にアクセスできない

- ☐ ケーブルは正しく接続されていますか？
 - インタフェースケーブルや電源ケーブル(コード)が確実に接続されていることを確認してください。また接続順序が正しいかどうか確認してください。
- ☐ Express5800/ftサーバで利用できる機器ですか？
 - 弊社が指定する機器以外は動作の保証はできません。
- ☐ 電源ONの順番を間違っていないですか？
 - 外付けデバイスを接続している場合は、外付けデバイス、Express5800/ftサーバの順に電源をONにします。
- ☐ ドライバをインストールしていますか？
 - 接続したオプションのデバイスによっては専用のデバイスドライバが必要な場合があります。デバイスに添付の説明書を参照してドライバをインストールしてください。
 - シリアルポートに接続しているデバイスについては、I/Oポートアドレスや動作モードの設定が必要なものもあります。デバイスに添付の説明書を参照して正しく設定してください。
 - <確認するメニュー:「Advanced」→「Peripheral Configuration」>

- SCSIコントローラ(オプション含む)の設定を間違えていませんか?
 - オプションのSCSIコントローラボードを搭載し、SCSI機器を接続している場合は、SCSIコントローラボードが持つBIOSセットアップユーティリティで正しく設定してください。詳しくはSCSIコントローラボードに添付の説明書を参照してください。
- SCSI機器の設定を間違えていませんか?
 - 外付けSCSI機器を接続している場合は、SCSI IDや終端抵抗などの設定が必要です。詳しくはSCSI機器に添付の説明書を参照してください。



CPUが二重化しない

- メモリの構成はあっているか確認してください。
- 弊社以外(サードパーティ)のCPUやメモリ(DIMM)を実装していないか確認してください。



ディスクの二重化設定ができない

- 手順どおりにミラーリング(故障交換後の再構築含む)を実施しないと、ミラーが(再)構築できない場合があります。手順を確認してください。



キーボードやマウスが正しく機能しない

- ケーブルは正しく接続されていますか?
 - Express5800/ftサーバ背面にあるコネクタに正しく接続されていることを確認してください。
- Express5800/ftサーバで利用できるキーボード・マウスですか?
 - 弊社が指定する機器以外は動作の保障できません。
- BIOSの設定を間違えていませんか?
 - Express5800/ftサーバのBIOSセットアップユーティリティでキーボードの機能を変更することができます。BIOSセットアップユーティリティで設定を確認してください。
<確認するメニュー: 「Advanced」→「Keyboard Features」>
- ドライバをインストールしていますか?
 - 使用しているOSに添付の説明書を参照してキーボードやマウスのドライバがインストールされていることを確認してください(これらはOSのインストールの際に標準でインストールされます)。また、OSによってはキーボードやマウスの設定を変更できる場合があります。使用しているOSに添付の説明書を参照して正しく設定されているかどうか確認してください。
- PS2-USB変換コネクタを使用していますか?
 - PS2-USB変換コネクタはサポートしていません。弊社指定のキーボード・マウスを接続してください。



画面が止まり、キーボードやマウスが機能しなくなる

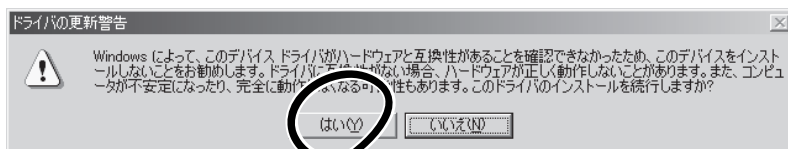
- メモリをたくさん搭載した場合、システム起動中やCPUモジュールの二重化中、メモリコピーに時間がかかり、このときシステムは止まりますが、故障ではありません。



Windows 2000 のインストール後にデバイス マネージャで日本語106/109 キーボードが英語101/102 キーボードと認識される。

→ デバイス マネージャでは英語101/102キーボードと認識されていますが、キーボードの入力は日本語106/109キーボードの配列で行うことができます。日本語106/109キーボードに変更したいときは、以下の手順で変更してください。

1. [スタートメニュー]から[設定]を選択し、[コントロールパネル]を起動する。
2. [管理ツール]内の[コンピュータの管理]を起動し[デバイスマネージャ]をクリックする。
3. [キーボード]をクリックし、以下のプロパティを開く。
101/102英語キーボードまたは、Microsoft Natural PS/2キーボード
4. [ドライバ]タブの[ドライバの更新]をクリックし、[このデバイスの既知のドライバを表示してその一覧から選択する]を選択する。
5. 「このデバイス クラスのハードウェアをすべて表示」を選択し、日本語 PS/2キーボード(106/109キー)を選択して[次へ]をクリックする。
6. ウィザードに従ってドライバを更新してコンピュータを再起動する。
7. 以下のメッセージが表示された場合は、[はい]をクリックして操作を続行する。



[新しいハードウェアが見つかりました]とメッセージが表示される

→ システム起動時、またはPCIモジュール交換後、システムに組み込まれる際に、新しいハードウェアを追加していないのに[新しいハードウェアが見つかりました]～SCSI Other Deviceメッセージが表示されることがありますが、本装置における動作の仕様によるものであり、本装置の動作には問題はありません。



フロッピーディスクにアクセス(読み込み、または書き込みが)できない

- ☐ フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットしていますか？
→ フロッピーディスクドライブに「カチッ」と音がするまで確実に差し込んでください。
- ☐ 書き込み禁止にしていますか？
→ フロッピーディスクのライトプロテクトスイッチのノッチを「書き込み可」にセットしてください。
- ☐ フォーマットしていますか？
→ フォーマット済みのフロッピーディスクを使用するか、セットしたディスクをフォーマットしてください。フォーマットの方法については、OSに添付の説明書を参照してください。



CD-ROMにアクセスできない

- ☐ CD-ROMドライブのトレイに確実にセットしていますか？
→ トレーにはCD-ROMを保持するホルダーがあります。ホルダーで確実に保持されていることを確認してください。
- ☐ Express5800/ftサーバで使用できるCD-ROMですか？
→ Macintosh専用のCD-ROMは使用できません。
- ☐ POWERスイッチのLED点灯(Primary側)PCIモジュールのCD-ROMドライブですか？
→ 本装置には2台のCD-ROMが実装されていますが、使用できるのは、POWERスイッチのLED点灯(Primary側)PCIモジュールのCD-ROMドライブです。どちら側のCD-ROMドライブであるか確認してください。



ハードディスクドライブにアクセスできない

- ☐ Express5800/ftサーバで使用できるハードディスクドライブですか？
→ 弊社が指定する機器以外は動作の保証はできません。
- ☐ ハードディスクドライブは正しく取り付けられていますか？
→ ハードディスクドライブのハンドルにあるレバーで確実にロックしてください。不完全な状態では、内部のコネクタに接続されません(8-9ページ参照)。また、正しく接続されている場合、Express5800/ftサーバの電源がONの間、ハードディスクドライブにあるランプが点灯します。



OSを起動できない

- ☐ フロッピーディスクをセットしていませんか？
→ フロッピーディスクを取り出して再起動してください。
- ☐ 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットしていませんか？
→ 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを取り出して再起動してください。
- ☐ OSが破損していませんか？
→ 別冊のユーザーズガイド(セットアップ編)の「システムの修復」(6-2ページ)を参照して修復を試してください。



OSの動作が不安定

- ☐ システムのアップデートを行いましたか？
→ OSをインストールした後にネットワークドライバをインストールすると動作が不安定になることがあります。別冊のユーザーズガイド(セットアップ編)の「システムのアップデート」(6-9ページ)を参照してシステムをアップデートしてください。



障害発生時、「自動的に再起動する」の設定で設定どおりに動作しない

- 障害発生時に「自動的に再起動する」の設定にかかわらず、自動的に再起動する場合や再起動しない場合があります。再起動しない場合は、手動で再起動してください。



ブルー画面で電源OFFができない

- ブルー画面で電源をOFFにする時は、強制電源OFF(強制シャットダウン: POWERスイッチを4秒間押し続ける)を行ってください。一度押しでは電源はOFFになりません。



ネットワーク上で認識されない

- ケーブルを接続していますか？
 - Express5800/ftサーバにあるネットワークポートに確実に接続してください。また、使用するケーブルがネットワークインタフェースの規格に準拠したものであることを確認してください。
- プロトコルやサービスのセットアップを済ませていますか？
 - Express5800/ftサーバ専用のネットワークドライバをインストールしてください。また、TCP/IPなどのプロトコルのセットアップや各種サービスが確実に設定されていることを確認してください。
- 転送速度の設定を間違えていませんか？
 - Express5800/ftサーバに標準で装備されている内蔵のLANコントローラは、転送速度が1000Mbps、100Mbps、または10Mbpsのいずれかのネットワークでも使用することができます。この転送速度の切り替えや設定はOS上から行えますが、「Auto Detect」という機能は使用せず、接続しているハブと同じ転送速度で固定に設定してください。また、接続しているハブとデュプレックスモードが同じであることを確認してください。

転送速度を固定にするにはPROSet IIにて設定します。

左側のツリーにて変更するアダプタを選択し、100Baseアダプタの場合は[Advanced]タブをクリックし、[Link Speed & Duplex]にて設定を行います。1000Base-Tアダプタの場合は[Link Config]タブをクリックします。[Auto Negotiation]に「Enabled」を選択し、[Negotiable Speed and Duplexes]で転送速度を設定します(使用する転送速度のみチェックを行う)。



エクスプローラ上でAドライブのアイコンが、リムーバブルディスクのアイコンに変わってしまう

- 異常ではありません。そのままお使いになっても問題ありません。



PCIモジュールの二重化に失敗する

- PCIモジュールのフェイルオーバー時、システムイベントログに以下のメッセージを記録し、PCIモジュールの二重化に失敗することがあります。その場合は、二重化に失敗したPCIモジュールを再挿入することで回復することができます。

「ソース : srabb
ID : 98
説明 : Diagnostic Test Failure! 11: IRQ1 Interrupt (0xd5a1)」

- CPUおよびPCIモジュールの同時交換を行う等により、CPUおよびPCIモジュールの二重化制御が同時に実行される場合、システムイベントログに以下のメッセージを記録し、PCIモジュールの二重化に失敗することがあります。その場合は、ftサーバユーティリティでCPUモジュールの起動を実行するか、CPUモジュールを再挿入することで回復させることができます。

「ソース : srabb
ID : 98
説明 : Diagnostic Test Failure! 10: Xena Sanity Check (0xd630)」



CPUモジュールの二重化に失敗する

- CPUおよびPCIモジュールの同時交換を行う等により、CPUおよびPCIモジュールの二重化制御が同時に実行される場合、システムイベントログに以下のメッセージを記録し、CPUモジュールの二重化に失敗することがあります。その場合は、ftサーバユーティリティでCPUモジュールの起動を実行するか、CPUモジュールを再挿入することで回復させることができます。

「ソース : srabb

ID : 98

説明 : Diagnostic Test Failure! 0: CPU Host Code Download (0xff0b)」



「ハードウェアの取り外し」ダイアログボックスに“Stratus Fault Tolerant Virtual 69000 Video”が表示される。

- システムトレイ上の「ハードウェアの取り外し」アイコンをダブルクリックすると2つの“Stratus Fault Tolerant Virtual 69000 Video”が表示されます。これらの取り外しを行わないでください。これらを取り外した場合には、接続されているPCIモジュールが強制的に切り離され、システムが正常に動作しなくなる可能性があります。



マシン起動時にリポートを繰り返す

- ☐ マシン起動時にCHKDSKが実施されていませんか？

→ リポート時にBIOS設定のユーティリティを起動し、下記の設定を変更してください。

BIOS設定変更

[Advanced]—[Monitoring Configuration]—[Boot Monitoring]を「Disabled」に変更する。

詳細については、4-15ページの「Monitoring Configuration」を参照してください。

※ CHKDSK完了後にマシンを再起動し、上記の設定を「Enabled」に戻して運用してください。

なお、CHKDSKが実施される条件は以下のようになります。

- 次回システム起動時にCHKDSKを実行するようにスケジュールした場合
- 前回の起動からシャットダウンまでの期間でファイルシステムの破損が検出された場合
- システム起動時のマウント処理においてファイルシステムの矛盾（破損）が検出された場合

- ☐ BIOS設定の[Boot Monitoring Time-out Period]の設定値は妥当ですか？

→ お客様の環境に合わせて[Boot Monitoring Time-out Period]の値を適宜変更してください。

詳細については、4-15ページの「Monitoring Configuration」を参照してください。



ウィンドウの表示位置がずれる

- PCIモジュールのフェイルオーバー時にウィンドウの表示位置が変更されることがあります。本現象についてはウィンドウの表示位置が変更されるだけで、そのウィンドウを持つプログラムおよびシステムの動作への影響はありません。そのまま運用していただいて問題ありません。



マウスの動きが鈍く、画面の描画に時間がかかる

- ハードウェアアクセラレータの設定が最大になっていませんか？
→ 「なし」に設定してください。Express5800/ftサーバでは、「ハードウェアアクセラレータ」は必ず「なし」に設定してください(既定値：なし)。

ハードウェアアクセラレータの確認および設定方法

[スタート]－[コントロールパネル]－[画面]をクリックしてください。画面のプロパティが表示されるので[設定]タブを選択し、[詳細設定]をクリックしてください。(規定のモニタ)とStratus Virtual Videoのプロパティが表示されるので[トラブルシューティング]タブを選択し、ご確認ください。



ディスクのアクセスランプが点灯しない

- アクセスが過多の時、点滅が頻繁に起こり、消灯しているように見えることがあります。アクセスが減少したときに緑色に点滅している、またはアクセスが止まったときに緑色に点灯していることを確認してください。



CPU/PCIモジュールが組み込まれない

- コンポーネントに故障が発生し、再組み込みを行う場合、システムイベントログに以下のメッセージを記録し、再組み込みが停止することがあります。その場合は、コンポーネントのMTBFがしきい値を下回り、修理の必要性があると判断して再組み込みができない状態です。通常、装置交換が必要となりますので保守員に相談してください。

何らかの理由で現在の装置のまま再組み込みを行う場合は、保守員に相談の上、強制的に再組み込みを行うことは可能です。

ソース : srabb

ID : 53

説明 : Device 0 is now BROKEN/REASON_BELOW_MTB



ディスクの管理に、使用できないディスクが表示される

→ 下表に従って対処してください。

ディスクの状態	説明	対処方法
 ディスク 1 ダイナミック 異形式	他のシステムで使用していたダイナミックディスクを装填した場合、[異形式]と表示されます。	【ディスクのデータを活用する場合】 「3章 Windowsの操作と設定」を確認し、ディスクのインポートを行ってください。 【使用可能なディスクに変更する場合】 このディスクを使用するためには、初期化が必要です。初期化の手順を実施することで、使用可能なディスクに変換できます。 <注意> 初期化した場合、ディスク上のデータは失われます。必要なデータがある場合は、バックアップを行ってから実施してください。
 不足 ダイナミック 6.01 GB オフライン	ダイナミックディスクが破損しているか、抜かれた場合、[不足]と表示されます。	不足ディスク上にミラーボリュームがある場合、当該ディスク上のミラーを削除してください。ミラーを削除したら、[不足]ディスクで右クリックして「ディスクの削除」を実行してください。
 ディスク 1 不明 16.94 GB 初期化されていません	ディスクに署名されていない場合、[初期化されていません]と表示されます。	当該ディスクで右クリックして「ディスクの初期化」を実行することで、使用可能なディスクに変換できます。



起動後、プライマリPCIモジュールのSTATUSランプ2とDISK ACCESSランプがアンバー色に点灯する

- ☐ ハードディスクのミラーが外れていませんか？

→ [ディスクの管理]を確認し、ミラーが外れた状態の場合は、ミラーを再構築してください。（3章 Windowsの操作と設定「ミラーの構築と解除」を参照）

ディスクの故障要因の他に、以下の操作を行った後、起動時にミラーが外れることがあります。

- PCIモジュールが片系(非二重化)状態でシャットダウン後、起動した。
- BMCステータスランプが点滅時に、Express5800/ftサーバを起動した。

AC電源をONにした直後や、PCIモジュールを装填した直後にBMC (Baseboard Management Controller)の二重化処理が行われます。

二重化処理の開始前または処理中に、電源ボタンを押して起動した場合、ディスクのミラー外れが発生することがあります。Express5800/ftサーバの起動は、BMCの二重化処理完了後に行うようにしてください。

二重化処理中かどうかの判断は、装填した側のPCIモジュールのBMCステータスランプから確認することができます。

- 赤色に点灯：二重化処理前
- 赤色に点滅：二重化処理中
- 消灯：二重化処理が完了

BMCステータスランプの内容については、2章の「ランプ」を参照してください。



SNMPサービス(snmp.exe)のCPU負荷率が高くなる

- ESMPRO/ServerManagerでサーバを監視中に、ESMPRO/ServerAgent側のSNMPサービスのCPU負荷率がESMPRO/ServerManagerのサーバ状態監視間隔(デフォルトは1分)ごとに高くなる場合があります。

ESMPRO/ServerAgentとESMPRO/ServerManagerはSNMPサービスを介して、情報のやりとりをします。ESMPRO/ServerManagerのサーバ状態監視を有効(デフォルトは有効)にしている場合には、定期的にESMPRO/ServerAgentに対して現在のサーバの状態の取得要求が発行され、それに対してESMPRO/ServerAgent側はサーバの状態確認を行うために一時的にSNMPサービスのCPU負荷率が高くなります。

動画再生などを行うアプリケーションにおいて「途切れ」などの現象が発生する場合は、ESMPRO/ServerManagerのサーバ状態監視をOFFにするか監視間隔を広げるなどして運用してください。



SNMPサービスがハングを起こした

- SNMPサービスには、SNMP拡張エージェントと呼ばれるモジュールが存在します。このSNMP拡張エージェントは、SNMPサービスを使用するソフトウェアをインストールした時に、登録される場合があります。

SNMPサービス起動時には、これらのSNMP拡張エージェントの読み込みも含め初期化が行われます。しかし、一定時間内に初期化が完了しなかった場合、SNMPサービスのハングが発生します。

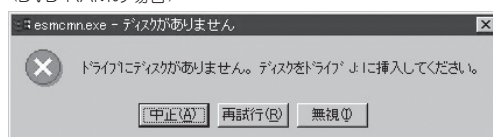
一時的なシステム高負荷などにより、SNMPサービスの初期化に時間がかかり、ハングを起こすことが考えられます。この場合は、システムの負荷が十分に軽くなった後、SNMPサービスを再起動してください。



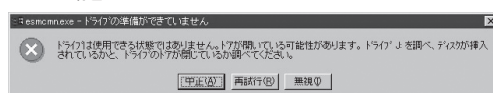
システム起動時にesmcmmn.exeのポップアップメッセージが表示される

- MOやDVD-RAMなどのリムーバブルドライブを搭載したシステムにESMPRO/ServerAgentがインストールされており、メディアの内容を参照後、エクスプローラなどの機能を利用してソフトウェアオブジェクト(エクスプローラのDVDドライブで右クリックし、表示されるリストで「取り出し」を選択する)でメディアを取り出し、エクスプローラなどを終了せずにシステムを再起動すると、以下の内容のポップアップメッセージが表示される場合があります。ポップアップメッセージの表示内容(表示されるドライブ名)は、システムによって異なります。

〈DVD-RAMの場合〉



〈MOの場合〉



前ページのポップアップメッセージが表示された場合、ダイアログボックス中の[中止]または[無視]をクリックしてダイアログボックスを閉じてください。

ダイアログボックスを閉じない場合、Workstationサービスおよび関連したサービスが起動できず、システムの運用が不安定になる場合があります。また、システムを再起動する場合はエクスペローなどメディアを参照しているプログラムを終了させた後に再起動してください。



障害発生時、メモリダンプ(デバッグ情報)が採取できない

- メモリダンプ(デバッグ情報)の格納先に空き容量はありますか？
 - メモリダンプ(デバッグ情報)の格納先には、本装置に搭載しているメモリサイズ+12MB以上(メモリサイズが2GBを超える場合は、2048+12MB以上)の空き容量のあるドライブを指定してください。
詳細については、別冊のユーザーズガイド(セットアップ編)の「Step C-10 障害処理のためのセットアップ」の「メモリダンプ(デバッグ情報)の設定」を参照してください。
- OSパーティションのページングファイルの[初期サイズ]が「推奨値未満」に設定されていませんか？
 - ページングファイルの[初期サイズ]を「推奨値未満」に設定すると正確なメモリダンプ(デバッグ情報)が採取できない場合があります。
必ずOSパーティションに「推奨値未満」以上で設定してください。
詳細については、別冊のユーザーズガイド(セットアップ編)の「Step C-10 障害処理のためのセットアップ」の「メモリダンプ(デバッグ情報)の設定」を参照してください。



Express5800/ftサーバとTCP/IPプロトコルで接続されているコンピュータとの間のコネクションでタイムアウトが発生する

- Express5800/ftサーバ起動直後およびCPUモジュールの再組み込み(二重化処理)時に、Express5800/ftサーバとLANプロトコルで接続されているコンピュータとの間のコネクションが無通信状態となり、タイムアウトを起こすおそれがあります。本現象を回避する設定が別冊のユーザーズガイド(セットアップ編)の5章「インストール完了後の作業」の「ネットワーク上のPCのセットアップ」に記載されていますので参照してください。

イベントログについて

？ システムイベントログに「NMSサービスは不正に終了しました」というログが記録される

→ システム立ち上げ時、またはPCIモジュール交換後、システムに組み込まれる際に、以下のログがシステムイベントログに記録されることがありますが、動作上問題ありません。

NMSサービスが停止するとPROSet II での設定更新が無効となりますが、実際は、PROSet II を起動するとNMSサービスが自動起動されるため設定更新は正常に行われます。そのままお使いになってください。

「ソース : Service Control Manager

ID : 7031

説明 : NMSサービスは不正に終了しました。これは1回発生しています。
次の修正動作が0ミリ秒以内に行われます : 何もしない」

？ システムイベントログに、iANSMiniport関連のログが記録される

→ ソース「iANSMiniport」のログは、LANの二重化に関するログです。システム立ち上げ時に以下のログがシステムイベントログに記録されることがあります（説明中のX: 数字）。

「ソース : iANSMiniport

種類 : 警告

ID : 11

説明 : Adapter link down: Intel(R) Stratus emb-82544GC Copper Gigabit Adapter.」

「ソース : iANSMiniport

種類 : 警告

ID : 11

説明 : Adapter link down: Intel(R) Stratus emb-82544GC Copper Gigabit Adapter #2.」

「ソース : iANSMiniport

種類 : 警告

ID : 13

説明 : Secondary Adapter is deactivated from the Team: Stratus emb-82544GC Copper Gigabit Adapter #2.」

「ソース : iANSMiniport

種類 : 警告

ID : 16

説明 : Team #X: The last adapter has lost link. Network connection has been lost.」

「ソース : iANSMiniport

種 類 : 警告

ID : 35

説 明 : Initializing Team #X with X missing adapters. Check the configuration to verify that all the adapters are present and functioning.]

上記のログが記録された後、以下のログが記録された場合は、上記のエラー、警告によるシステムへの影響はありません。以下のログが記録されていない場合でも、ソース名 : sragbe のエラーが記録されていない場合は、上記のエラー、警告によるシステムへの影響はありません。

「ソース : iANSMiniport

種 類 : 情報

ID : 14

説 明 : Secondary Adapter has rejoined the Team: Stratus emb-82544GC Copper Gigabit Adapter.]

「ソース : iANSMiniport

種 類 : 情報

ID : 15

説 明 : Secondary Adapter link up: Stratus emb-82544GC Copper Gigabit Adapter.]

「ソース : iANSMiniport

種 類 : 情報

ID : 17

説 明 : Team #X: An adapter has re-established link. Network connection has been restored.]



システムイベントログに、ESMCpuPerf関連のログが記録される

→ システムの一時的なリソース不足や高負荷率などが原因で、OSからパフォーマンス情報が取得できないことを検出した場合にESMPRO/ServerAgentでは以下のイベントログを登録致しますが、システムの運用に特に問題はありません(説明中のYとx: 英数字・YYYYは取得できない場合もあります)。

「ソース : ESMCpuPerf

ID : 9005

説 明 : システムのパフォーマンス情報が取得できない状態です(YYYY Code=xxxx)」

なお、情報が取得できない場合には、負荷率は0%として扱うため、連続して情報が取得できない事象が発生した場合、CPU負荷率は実際値よりも低く表示される場合があります。



アプリケーションイベントログに、EvtAgntのログが記録される

- このイベントはシステムに対する影響はなく (SNMPサービスに対する影響もありません)、対処を行わなくても問題はありません。

「ソース : EvtAgnt

ID : 1003

説明 : TraceFileName パラメータがレジストリにありません。使用した既定のトレースファイルは???です。」

「ソース : EvtAgnt

ID : 1015

説明 : TraceLevel パラメータがレジストリにありません。使用した既定のトレースレベルは32です。」



システムイベントログにSCSIコントローラエラーが記録される

- システムのイベントログにソースがsraq160のSCSIコントローラエラーが記録される場合があります。これはハードディスクドライブの処理がOSの要求に間に合わない場合に発生するもので、リトライ機能により正常に処理が継続されます。動作には何ら影響がありませんので、以下のとおり「詳細データ」を確認して、データが「f0030004」または「f0030015」であれば、そのログは無視してください。

ただし、上記の詳細データが「f0030004」または「f0030015」であるSCSIコントローラエラーが何度も記録されるようであれば、ハードディスクドライブが故障しているおそれがありますので、保守サービス会社にご連絡ください(目安としては1週間に10回以上)。



システム起動時にアプリケーションイベントログにソース : Perflib・IISInfoCtrs・W3Ctrs・FTPCtrsのイベントが登録される

- ソース : Perflibのイベントに関して

- システム起動時に、アプリケーションログにソース : Perflibでログが登録される場合があります。イベントログに関する詳細情報は、マイクロソフトサポートオンラインに記載されています。それぞれの事象の解決方法の情報を参考にしてください。

- ー マイクロソフトサポート技術情報 文書番号 : 226494

[INFO]パフォーマンスモニタ拡張機能のイベント

<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;ja;226494>

- ー マイクロソフトサポート技術情報 文書番号 : 296187

パフォーマンスカウンタの開始でアプリケーションログが発生する

<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;ja;296187>

- ー マイクロソフトサポート技術情報 文書番号 : 267831

パフォーマンスカウンタをロードするときにイベントID 2003の警告メッセージがログに記録される

<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;ja;267831>

□ ソース：Perflibのイベントに関して

→ システム起動時に、アプリケーションログにソース：Perflibでログが登録される場合があります。イベントログに関する詳細情報は、マイクロソフトサポートオンラインに記載されています。それぞれの事象の解決方法の情報を参考にしてください。

－ マイクロソフトサポート技術情報 文書番号：226494

[INFO]パフォーマンスモニタ拡張機能のイベント

<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;ja;226494>

－ マイクロソフトサポート技術情報 文書番号：296187

パフォーマンスカウンタの開始でアプリケーションログが発生する

<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;ja;296187>

－ マイクロソフトサポート技術情報 文書番号：267831

パフォーマンスカウンタをロードするときにイベントID 2003の警告メッセージがログに記録される

<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;ja;267831>

□ ソース：IISInfoCtrs・W3Ctrs・FTPCtrsのイベントに関して

→ システム起動時に、アプリケーションログに以下のソースでログが登録される場合があります。

ソース : IISInfoCtrs,W3Ctrs

イベントID : 1003

ソース : FTPCtrs

イベントID : 1000

イベントログに関する詳細情報は、マイクロソフト サポートオンラインに記載されています。それぞれの解決方法の情報を参考にしてください。

－ マイクロソフトサポート技術情報 文書番号：418200

[IIS]IISInfoCtrsとW3CtrsでイベントID 1003が記録される

<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;ja;418200>

－ マイクロソフトサポート技術情報 文書番号：418199

[IIS]FTPCtrs でイベント ID 1000 が記録される

<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;ja;418199>

マイクロソフトサポートオンラインには、記述したイベントログ以外の技術情報も公開されています。参考として定期的に確認してください。

<http://support.microsoft.com/default.aspx?LN=JA>



PCIモジュール起動時にソース：srabbのイベントが登録される

→ OS起動時もしくはPCIモジュール起動時に、以下のイベントログが登録されます。

ソース : srabb
 イベントID : 32
 説明 : "Device 10/0 is now EMPTY" もしくは "Device 11/0 is now EMPTY"

いずれかのイベントログが登録された後、数分以内に以下のイベントログが登録されている場合は上記イベントログは無視してください。

ソース : srabb
 イベントID : 62
 説明 : "Device 10/0 is now ONLINE" もしくは "Device 11/0 is now ONLINE"



CPU負荷監視の警告イベントログが登録される

→ システムの一時的なリソース不足や高負荷率などが原因で、OSからパフォーマンス情報が取得できないことを検出した場合にESMPRO/ServerAgentでは以下のイベントログを登録しますが、システムの運用に特に問題はありません（説明中のYとx: 英数字・YYYYは取得できない場合もあります）。

ソース : ESMCpuPerf
 種類 : 情報
 イベントID : 9005
 説明 : システムのパフォーマンス情報が取得できない状態です
 (YYYY Code=xxxx)

なお、情報が取得できない場合には、負荷率は0%として扱うため、連続して情報が取得できない事象が発生した場合、CPU負荷率は実際値よりも低く表示される場合があります。



「過去のイベントを検知しました」というイベントが登録される

→ MSCSを使用した場合、以下のイベントが登録され、ESMPRO/ServerManagerに通報される場合があります。

ソース : AlertManagerMainService
 ID : 802
 内容 : Systemログ監視中に過去のイベントを検知しました。以下の原因が考えられます。

- － システム時刻が変更された。
- － シャットダウンが正常に行われなかった。
- － イベントログファイルが壊れている。

MSCSでは、クラスタ構成にしているコンピュータのイベントがすべて見えるという機能がありますが、日付順にイベントがイベントログに格納されないことがあります(片方をシャットダウン、もしくは、起動した時など)。

ESMPRO/ServerAgentでは、イベントが日付順になっているかをチェックしているため、日付順でないイベントを発見すると「過去のイベントを検出した」という事で、上記イベントを登録します。

MSCSの機能が原因で、このイベントが登録された場合でも、イベントログ監視機能は継続していますので、日付順に並んでいるイベントに対しては正しく機能します。

EXPRESSBUILDERについて

EXPRESSBUILDERからExpress5800/ftサーバを起動できない場合は、次の点について確認してください。

- ☐ POSTの実行中にEXPRESSBUILDERをセットし、再起動しましたか？
→ POSTを実行中にEXPRESSBUILDERをセットし、再起動しないとエラーメッセージが表示されたり、OSが起動したりします。
- ☐ BIOSのセットアップを間違えていませんか？
→ Express5800/ftサーバのBIOSセットアップユーティリティでブートデバイスの起動順序を設定することができます。BIOSセットアップユーティリティでCD-ROMドライブが最初に起動するよう順序を変更してください。
<確認するメニュー: 「Boot」>

EXPRESSBUILDER実行中、何らかの障害が発生すると、次のメッセージが表示されます。エラーコードを記録して保守サービス会社に連絡してください。

メッセージ	原因と処理方法
本プログラムの動作対象マシンではありません。	EXPRESSBUILDER の対象マシンではありません。対象マシンで実行してください。
NvRAMへのアクセスに失敗しました。	不揮発性メモリ(NvRAM)にアクセスできません。
ハードディスクドライブへのアクセスに失敗しました。	ハードディスクドライブが接続されていないか、ハードディスクドライブが異常です。ハードディスクドライブが正常に接続されていることを確認してください。

この他にもシステム診断を実行したときに障害を検出するとエラーメッセージが表示されます。表示されたメッセージをメモし、保守サービス会社までご連絡ください。

マスターコントロールメニューについて

? オンラインドキュメントが読めない

- Adobe Acrobat Readerが正しくインストールされていますか?
 - オンラインドキュメントの文書の一部は、PDFファイル形式で提供されています。あらかじめAdobe Acrobat Reader (Version 4.05以上)をご使用のオペレーティングシステムへインストールしておいてください。なお、Adobe Acrobat Readerは、EXPRESSBUILDERからインストールすることができます。マスターコントロールメニューを起動後、[ソフトウェアのセットアップ]の[Adobe Acrobat Reader]を選択してください(インストール後、Acrobat Readerを起動して使用許諾契約書に同意してからご使用ください)。

? オンラインドキュメントの画像が見にくい

- ご使用のディスプレイは、256色以上の表示になっていますか?
 - ディスプレイの設定が256色未満の場合は、画像が見にくくなります。256色以上の表示ができる環境で実行してください。

? マスターコントロールメニューが表示されない

- ご使用のシステムは、Windows NT 4.0以降、またはWindows 95以降ですか?
 - CD-ROMのAutorun機能は、Windows 2000、およびWindows NT 4.0、Windows 95以降でサポートされた機能です。それ以前のバージョンでは自動的に起動しません。ご注意ください。
- <Shift>キーを押していませんか?
 - <Shift>キーを押しながらCD-ROMをセットすると、Autorun機能がキャンセルされます。
- システムの状態は問題ありませんか?
 - システムのレジストリ設定やCD-ROMをセットするタイミングによってはメニューが起動しない場合があります。そのような場合は、CD-ROMの¥MC¥1ST.EXEをエクスプローラ等から実行してください。

? メニュー項目がグレイアウトされている

- ご使用のコンピュータ環境は、正しいですか?
 - 実行するソフトウェアによっては、管理者権限が必要な場合や、本装置上で動作することが必要な場合があります。適切なコンピュータ環境にて実行するようにしてください。

? 「This program requires Windows Japanese version」というメッセージを表示する

- ご使用のコンピュータ環境は、正しいですか?
 - 本製品は日本語版Windows専用です。オペレーティングシステムが英語バージョンの場合、プログラムは起動できませんので、日本語バージョンのオペレーティングシステムにて動作させてください。

ESMPROについて

ESMPRO/ServerManagerについて

- 「ユーティリティのインストールと操作」の5-36ページ以降の説明を参照してください。また、添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerManagerインストールレーションガイド」でトラブルの回避方法やその他の補足説明が記載されています。参照してください。



ファイルシステムの監視間隔、空き容量監視のしきい値の変更が反映されない

- ESMPRO/ServerAgentのファイルシステム監視機能による監視間隔変更、空き容量監視のしきい値変更などの設定変更は、変更してもすぐには反映されません。
設定変更を実施した後、監視サービスの次の監視間隔で変更した設定が有効になります。



ESMPRO/ServerAgentからのトラップがESMPRO/ServerManagerに正しく受信されない

- ESMPRO/ServerManager側の設定で受信するトラップのコミュニティをデフォルトの「public」から変更した場合は、SNMPサービスの設定を変更する必要があります。別冊のユーザーズガイド(セットアップ編)を参照し、ESMPRO/ServerManager側で新しく設定したコミュニティ名と同じものを設定してください。

ESMPRO/ServerAgentからのトラップがESMPRO/ServerManagerに正しく受信されるためには、双方のコミュニティ名が一致する必要があります。



ESMPRO/ServerManagerにアラートが重複して通報される

- SNMPサービスのトラップ送信先に指定されている相手ESMPRO/ServerManagerのIPアドレス(またはホスト名)をマネージャ通報(TCP/IP)の設定で指定した場合、重複していることを警告するメッセージを表示します。同一のESMPRO/ServerManagerを指定するとアラートが重複して通報されます。



ESMPRO/ServerManagerからの監視ができない

- SNMPサービスのトラッププロパティシートのコミュニティ名に「public」以外のコミュニティ名を入力した場合は、別冊のユーザーズガイド(セットアップ編)を参照し、セキュリティプロパティシートの「受け付けるコミュニティ名」にもその値を追加してください。
「受け付けるコミュニティ名」の権利を「READ CREATE」または「READ WRITE」以外の権利に設定すると、ESMPRO/ServerManagerからの監視ができなくなります。

**ESMPRO/ServerManagerからのSNMPパケットをESMPRO/ServerAgent側****で受信できない**

→ SNMPサービスのSNMPパケットを受け付けるコミュニティ名をデフォルトの「public」から任意の名前に変更した場合は、[コントロールパネル]からESMPRO/ServerAgentのコミュニティ変更登録を行う必要があります。以下の手順で変更登録を行ってください。

1. [コントロールパネル]の[ESMPRO ServerAgent]のアイコンをダブルクリックする。
2. [全般設定]シートの[SNMPの設定]にある[SNMPコミュニティ名]リストボックスから任意のコミュニティ名を選択する。

[SNMPコミュニティ]リストボックスには受信対象のコミュニティ名の一覧が表示されます。
3. [OK]をクリックして終了する。

ESMPRO/ServerManagerからのSNMPパケットをESMPRO/ServerAgent側で正しく受信できるようにするためにはESMPRO/ServerManager側の設定の送信コミュニティ名とESMPRO/ServerAgent側のSNMPサービスが受け付けるコミュニティ名を同じにしてください。

**ESMPRO/ServerAgentが正しく動作しない**

→ OSのインストールの際にサービスパックを適用してからSNMPサービスを追加した場合は、再度サービスパックを適用してください。SNMPサービスが正しく動作せず、ESMPRO/ServerAgentが動作しなくなることがあります。

→ ESMPRO/ServerAgentの動作にはSNMPサービスが必須です。ESMPRO/ServerAgentをインストールした後にSNMPサービスを削除してしまった場合は、SNMPサービスをインストール後、ESMPRO/ServerAgentを再インストールしてください。

→ 他社製ソフトウェアの中には、SNMPサービスを使用しているものがあります。このようなソフトウェアがインストールされている状態で、SNMPサービスとESMPRO/ServerAgentをインストールすると、ESMPRO/ServerAgentのサービスが起動できない問題が発生する場合があります。このような場合は、いったんSNMPサービスを削除して、SNMPサービスを再インストールしてください。その後で、ESMPRO/ServerAgentと上記他社製ソフトウェアを再インストールしてください。

**CPU情報で「不明」もしくは不正な情報が表示される**

→ データビューアのFTServerツリーの[CPUモジュール]―[CPU]を選択した場合、一部情報の項目で「不明」もしくは不正な情報が表示されます。CPU情報に関しては、ESMPRO MIBツリーの[システム]―[CPU]で情報が参照できます。こちらで確認してください。

**CPUモジュールの状態が不正に表示される**

→ CPUモジュールを停止してもデータビューアのFTServerツリーの[CPUモジュール]アイコンのステータス色は緑色から変わりません。システムの構成変更が発生したことを示す通報があったときは、[CPUモジュール]―[一般情報]の「状態」の項目で現在の状態を確認してください。



PCIモジュールの状態が不正に表示される

- オンボードのイーサネットボードからケーブルを抜いても、データビューアのFT Serverツリーの[PCIモジュール]ー[一般情報]の「状態」は変わりません。[PCIモジュール]ー[イーサネットボード]の「状態」の項目で現在の状態を確認してください。



データビューアのツリーの再構築を促すメッセージが表示される

- データビューアによりサーバ情報を参照中に、当該システムのCPUモジュールまたはPCIモジュールの構成を動的に変更した場合、データビューアのツリーの再構築を促すメッセージが表示されます。

[はい]をクリックするとデータビューアでツリーの再構築を行い、システムの構成変更がデータビューア上に反映されます。

[いいえ]をクリックすると、データビューアのツリーの再構築は行われません。その場合、システムの構成変更が反映されないため、データビューアの情報は現在のシステムの情報と異なる可能性があります。



SCSIアダプタ情報に不正な情報が表示される

- データビューアおよびWebコンポーネントのデータビューアで[SCSIアダプタ]ー[一般情報]を参照した際、項目「シリアル番号」、「ROMBIOSリビジョン」に不正な情報が表示される場合があります。「ROMBIOSリビジョン」は、システム起動時のPOST画面で確認してください。



SCSIバスの「設定」項目がグレイ表示される

- データビューアのFT Serverツリーの[PCIモジュール]ー[SCSIアダプタ]ー[SCSIバス]を参照する場合、「設定」項目がグレイ表示される場合があります。SCSIバスのプライマリ状態は、上位モジュールであるPCIモジュールの状態と同一になりますので、PCIモジュールの状態(プライマリ/セカンダリ)を確認してください。



SCSIスロット情報が不正な状態で表示される

- PCIモジュールを取り外した状態で、データビューアおよびWebコンポーネントのデータビューアの[SCSIスロット]ー[一般情報]を参照した際、「ハードウェアLED」の情報が不正な状態で表示される場合があります。SCSIスロットの状態を確認するには、「状態」項目に表示される文字列情報を参照してください。



モジュールの状態が"故障"と表示される

- PCIモジュール、SCSIアダプタ、SCSIバス、およびSCSIエンクロージャ配下のモジュールの状態は相互に影響を及ぼします。モジュールの「状態」項目が“故障”に変化した場合などは、他のモジュールの障害が原因の場合も考えられますので、アラート通報などを参考にしながら他のモジュールの状態も確認してください。



ハードディスクドライブ取り付け後の状態色がさまざまな状態に変化する

- ミラーを新たに作成する場合、ハードディスクドライブを取り付けた後、ミラーの作成が完了するまでの間、ハードディスクドライブの状態およびその上位コンポーネントであるSCSIエンクロージャの状態はさまざまな状態に変化します。その過程で、状態色が異常色に変化することもあります。ミラーの作成に成功すると正常色になります。

**回線障害や回線高負荷が通報される**

- LAN監視機能では一定時間内の送受信パケット数とパケットエラー数により回線の状態を判断するため、一時的な回線高負荷状態の場合にも回線障害や回線高負荷を通報することがあります。すぐに状態回復が通報される場合は一時的な回線高負荷が発生したと考えられますので、特に問題はありません。

**LAN監視のしきい値が反映されない**

- Express5800/ftサーバでは、ネットワークのハードウェア障害はドライバレベルで検出するので ESMPRO/ServerAgentでは回線障害を監視しません。そのため、コントロールパネルの[ESMPRO ServerAgentのプロパティ]の[LAN]タブの「回線障害発生の割合」の設定値は使用されません。

**ESMPRO/ServerManagerからのリモートシャットダウン機能やしきい値の変更機能を使用できない**

- OSの種類やバージョンによっては、SNMPサービスのセキュリティ機能であるコミュニティが設定されていなかったり、権限の初期設定が異なったりします。ESMPRO/ServerManagerからのリモートシャットダウン機能やしきい値の変更機能を使用するためには、コミュニティを設定し、その権限を「読み取り、作成」(「READ CREATE」)または「読み取り、書き込み」(「READ WRITE」)に設定してください。

**スリープ状態のマシンを監視できない**

- ESMPRO/ServerAgentマシンがスリープ状態(システムスタンバイ、システム休止状態)の場合、ESMPRO/ServerManagerからスリープ中のESMPRO/ServerAgentマシンを監視することはできません。
ESMPRO/ServerManagerからサーバダウン監視を行っている場合に該当するESMPRO/ServerAgentマシンがスリープ状態になると「サーバアクセス不能」の通報が上がり、サーバアイコンの状態色が灰色になり、ESMPRO/ServerAgentマシンがダウンしたのかスリープ状態なのか区別することができません。監視対象のシステムをスリープ状態になるような設定を行って運用される場合は注意してください。

**ESMPRO/ServerManagerで監視できない項目がある**

- バージョン4.0以前のESMPRO/ServerManagerで監視する場合は、監視できない項目があります。ESMPRO/ServerManager Ver.4.1は、装置添付のCD-ROMに登録されています。そちらを利用してください。

**ESRASユーティリティで各種ログを参照できない**

- ESRASユーティリティは、ESMPRO/ServerAgentがインストールされたExpress5800シリーズにおいて動作する各種ログの参照、印刷、ファイルへの出力および初期化を行うソフトウェアです。ESMPRO/ServerManager Ver.4.0以前のESRASユーティリティを使用する場合、各種ログを参照できない装置があります。
必ずESMPRO/ServerManager Ver.4.1以降のESRASユーティリティを使用してください。装置添付のCD-ROMには、ESMPRO/ServerManager Ver.4.1が登録されています。Ver.4.1に含まれるESRASユーティリティを使用してください。



二重化システム管理をしたい

- 二重化システム管理を行う場合は、運用／待機両系別々にローカルディスクにインストールします。ESMPRO/ServerAgentのインストールは2台のサーバにインストールすること以外は通常のインストールと同じです。



シリアルポートの使用について

- シリアルポートがサポートされている機種の場合、以下の点に注意願います。ESMPRO/ServerAgentは、シリアルポートを使用する機能が複数あります。これらの機能を使う場合、ポートが不足する可能性があります。それぞれの機能で利用できるシリアルポートは以下のとおりです。

UPS : COM1～10
 APCU : COM1～2
 ALIVE通報 : COM1～9
 ALIVE保守 * : COM1～9
 ページャ通報 : COM1～9

* ALIVE保守はリモートアクセスサービス (Remote Access Service) を利用します。

マネージャ通報 (TCP/IP Out-of-Band) でリモートアクセスサービスを利用する場合に利用できるシリアルポートは以下のとおりです。

マネージャ通報 (TCP/IP Out-of-Band) : COM1～10

このうち、シリアルポートを共有できるのは、以下の組み合わせだけです。

- ALIVE通報＋ALIVE保守＋ページャ通報

ALIVE通報時、ALIVE保守用のリモートアクセスサービスが停止させられます。ALIVE通報を終了後、リモートアクセスサービスを開始します。ALIVE保守が長時間シリアルポートを使っているとページャ通報ができないことがあります (ページャ通報時はRASサービスは停止させられません)。

- ALIVE通報＋ページャ通報

どちらか一方の機能で回線を使用しているときはもう一方の機能は使えません。

- ALIVE通報＋ALIVE保守

ALIVE通報時、ALIVE保守用のリモートアクセスサービスが停止させられます。

- ALIVE保守＋ ユーザ利用リモートアクセスサービス

どちらか一方の機能で回線を使用しているときはもう一方の機能は使えません。

ー リモートアクセスサービスを使用するマネージャ通報 (TCP/IP Out-of-Band) は、他のシリアルポートと共有すると障害情報が通知できない場合があります。共用は避けてください。また、ユーザー業務やALIVE保守とALIVE通報でポートを共用した場合でもリモートアクセスサービスが停止し、障害情報が通知できない場合があります。

ー ユーザーがリモートアクセスサービスを使用する場合は、ALIVE通報／保守用のリモートアクセスサービスのシリアルポートとの共有は避けてください。共有した場合、ユーザーがリモートアクセスサービス利用中でも、ALIVE通報時に強制的に切断し、通報を行います。

次表にシリアルポートとデバイス（または機能）の組み合わせと必要となるモデムの数について示します。マネージャのリモート監視については記載していません。

－ COM3以上を使う場合は多回線ボードが必要です。

COM1	COM2	COM3	COM4	モデム数
APCU	UPS	ALIVE,PG	RAS(M,U)	2
APCU	UPS	ALIVE	RAS(M,U)	2
APCU	UPS	PG	RAS(U)	2
APCU	UPS	ALIVE,PG,RAS(M)		1
APCU	UPS	ALIVE,RAS(M)		1
APCU	UPS	PG		1
APCU	UPS	RAS(U)		1
UPS	ALIVE,PG	RAS(M,U)		2
UPS	ALIVE	RAS(M,U)		2
UPS	PG	RAS(U)		2
APCU	ALIVE,PG	RAS(M,U)		2
APCU	ALIVE	RAS(M,U)		2
APCU	PG	RAS(U)		2
UPS	ALIVE,PG,RAS(M)			1
UPS	ALIVE,RAS(M)			1
UPS	PG			1
UPS	RAS(U)			1
APCU	ALIVE,PG,RAS(M)			1
APCU	ALIVE,RAS(M)			1
APCU	PG			1
APCU	RAS(U)			1
APCU	UPS			1
ALIVE,PG	RAS(M,U)			2
ALIVE	RAS(M,U)			2
PG	RAS(U)			2
APCU				1
UPS				1
ALIVE,PG,RAS(M)				1
PG				1
RAS(U)				1
ALIVE,RAS(M)				1



監視イベントが通報されない

- アラート通報機能はシステムのイベントログに登録されたイベント情報を元に通報を行っています。そのためイベントビューアのイベントログの設定にてイベントログの処理を[必要に応じてイベントを上書きする]に設定してください。それ以外の設定では通報されません。
- アラート通報機能の設定ツール(アラートマネージャ)の監視イベントツリーに登録されたイベントは、Alert Manager Main Serviceが起動していないとマネージャなどへ通報されません。また上記サービスが起動している場合でも、各通報手段の通報有効/無効フラグが無効になっていると通報されません。通報有効/無効フラグは、アラートマネージャの[設定]メニューから[通報基本設定]を選択し、[通報手段の設定]プロパティで設定します。同様に、システム起動時にEventlogサービスが起動以前に発生したイベントについては通報できません。
- アラート通報機能の設定ツール(アラートマネージャ)の[通報基本設定]-[その他の設定]において、シャットダウン開始までの時間を設定できます。初期値は20秒になっています。この値を初期値より短くした場合にシャットダウン時の通報が行われない場合があります。
- 監視対象イベントの通報時に通報障害が発生した場合、エラーメッセージがイベントログに登録されます。この通報時に発生するエラーメッセージを監視対象イベントとして新規登録してしまうと、通報時のエラーを再度通報してしまうことになり、障害復旧時に大量の通報が行われてシステムの負荷が高くなり、性能が低下することになります。特に下記アラート通報機能のサービスが出力するイベントは監視対象としないでください。

Alert Manager ALIVE(S) Service
 Alert Manager Main Service
 Alert Manager Socket(S) Service



プリンタ情報の利用可能時間と終了時刻が不正に表示される

- 新しくプリンタを接続し、ドライバのインストールやコンフィグレーションを行った時に、プリントマネージャから利用可能時間/終了時刻の設定を行わなかった場合、プリントマネージャで表示される利用可能時間/終了時刻は[00:00]ですが、マネージャで表示される利用可能時間/終了時刻は[9:00]となります。これを正しく表示するようにするためにはプリントマネージャでプリンタの詳細を設定してください。設定方法は以下のとおりです。
1. プリントマネージャを起動し、設定したいプリンタのプリンタ情報画面を開く([プリンタ]→[プリンタ情報])。
 2. [詳細]でプリンタ詳細画面を開く。
 3. 利用可能時間/終了時刻を設定し、プリンタ詳細画面、プリンタ情報画面でそれぞれ[OK]をクリックして終了する。
- 以上でマネージャからも正しい情報が表示されるようになります。

**ESMPRO/ServerAgentを使用中にディスクに関する作業をしたい**

→ ESMPRO/ServerAgentを使用中にディスク(ハードディスクドライブやMOなど)に対する以下のような作業はできません。

- ディスクアドミニストレータなどでのパーティションのフォーマットや削除
- MO、Zip、PDなどのリムーバブルディスクのソフトウェアからのメディアの取り出し要求

これらの作業は次の手順で行ってください。

1. [コントロールパネル]の[サービス]を開く。
2. 「ESMCommonService」という名前のサービスを選択後、[停止]をクリックする。
3. 「ESMCommonService」の停止を確認後、[コントロールパネル]の[サービス]を閉じる。
4. ディスク関連の作業を行う。
5. 再び[コントロールパネル]の[サービス]を開き、「ESMCommonService」を選択後、[開始]をクリックする。
6. 「ESMCommonService」の開始を確認後、[コントロールパネル]の[サービス]および[コントロールパネル]を閉じる。

**温度/電圧/ファン監視のしきい値を変更したい。**

→ ESMPRO/ServerAgentからは温度／電圧／ファンのしきい値の表示／変更はできません。ただし、機種によってはESMPRO/ServerManagerのデータビューアでしきい値の表示のみできるものがあります。

ESMPRO/ServerAgentはそれぞれの機種で設定された最適なしきい値により監視を行っています。

**アラートの詳細情報が「不明」と表示される**

→ アラートビューアで表示されるアラートの詳細情報は、アラートによって一部の情報が「不明」と表示されるものがあります。

**ソフトウェアALIVE、ページャオンラインの表示情報が「不明」と表示される**

→ システム環境情報画面のRAS情報の表示画面でソフトウェアALIVE、ページャオンラインの表示は、ソフトウェアALIVE、ページャオンラインの有効・無効にかかわらず常に「不明」と表示されます。

**テープ装置の障害監視を行いたい**

→ ESMPRO/ServerAgentでは、テープ装置の障害監視は行いません。監視を行う場合は、バックアップソフトウェアや、テープ監視アプリケーションをご利用ください。ESMPRO/ServerAgentのイベント監視機能を使用することにより、バックアップソフトウェアまたはアプリケーションが登録するイベントログを監視することが可能です。

**CLUSTERPRO使用システムでファイルシステム監視が引き継げない**

→ 弊社のCLUSTERPROによるクラスタ環境でESMPRO/ServerAgentを使用する場合、次のような制限事項があります。

運用系サーバで設定した空き容量監視機能のしきい値、監視の有効／無効は、フェールオーバーが発生した場合、待機系サーバへ引き継がれません。必ず、待機系サーバでしきい値、監視の有効／無効を設定しなおしてください。

? 筐体カバー監視のアラートが通報されない

→ 筐体カバー監視をサポートしている機種でも、初期設定では筐体カバーの開閉に伴うアラート通報は行われません。アラート通報機能の設定ツール(アラートマネージャ)で設定を変更することにより、筐体カバーの開閉のアラート通報を行うことができます。ただし上記設定に関係なく、ESMPRO/ServerManagerの統合ビューアのサーバ状態色やデータビューアには筐体カバーの状態が反映されます。

? 温度/電圧/ファンセンサの表示が不正である

→ 機種によっては、状態や現在値、回転数、しきい値などの情報を持たない温度/電圧/ファンセンサが存在します。そのため、ESMPRO/ServerManagerで該当センサを参照した場合に、以下のように表示されることがありますので注意してください。

- データビューアで、状態が「不明」となる(灰色表示される)。
- データビューアで、現在値や回転数が「不明」と表示される。
- Webコンポーネントのデータビューアで、状態が灰色表示される。
- Webコンポーネントのデータビューアで、現在値や回転数に何も表示されない。

上記のように表示されていても、監視は行っていますので問題ありません。

? CPU/PCIモジュールの温度/電圧異常が発生した

→ CPU/PCIモジュールにおいて温度/電圧の異常が発生した場合、CPU/PCIモジュールの状態により、以下のように動作が異なります。各モジュールの状態はftサーバユーティリティまたはESMPRO/ServerManagerのデータビューアによって確認できます。

状態	動作
Duplex	異常が発生したCPU/PCIモジュールの停止
Duplex, Empty以外	システムのシャットダウン

ー 状態がEmptyの場合は、モジュールが実装されていないためセンサの監視は行われません。

ー PCIモジュールにディスクが実装される装置において、ディスクのミラーリング中は、両方のPCIモジュールの状態はSimplexとなります。ミラーリング中に温度/電圧の異常が発生した場合は、システムのシャットダウンが行われます。

? ネットワークドライブがデータビューアに表示されない

→ WindowsXP以降にリリースされたOS環境において、ネットワーク接続したドライブは、ESMPRO/ServerManagerでのデータビューアのファイルシステムツリー配下に表示されません。

? シャットダウン監視をする

→ シャットダウン監視を行う場合、すべてのシャットダウン処理が監視対象となります。OSの再起動や電源OFFを伴わないようなシャットダウンを使用するアプリケーションがある場合は、タイムアウト時間を長めに設定するか、または監視をOFFにしてください。

**CPU情報の外部クロックが「不明」と表示される**

→ データビューアのシステムツリーのCPU情報の外部クロックは「不明」と表示されます。

**データビューアの[Ft Server]ツリーの表示が不正である**

→ システム起動直後や、CPUモジュール、PCIモジュールの起動/停止後などに、データビューアの起動、またはツリーの再構築を行った場合、データビューアの[Ft Server]ツリー側が正常に表示されない場合があります。その場合は約5分待ってから、再度データビューアの起動を行ってください。

**フロッピーディスク情報の表示が不正である**

→ プライマリ側のPCIモジュールを抜き差しすると、データビューアの[I/Oデバイス]のフロッピーディスクドライブの名前がOSで認識しているドライブ名と異なる場合があります。

(例：データビューアの表示："A:"、OSの認識しているドライブ名："B:")

フロッピーディスクのドライブ名を確認する際は「エクスプローラ」等で確認してください。

→ システム動作中にUSB接続のフロッピーディスクドライブの追加、削除を行った場合、データビューアの[I/Oデバイス]配下のドライブ情報に 反映されるのは次回システム起動時になります。

**BIOS情報の表示が不正である**

→ データビューアの[Ft Server]―[CPUモジュール]―[個々のCPUモジュール]―[一般情報]―[BIOS情報]の付加情報とftサーバユーティリティのCPUモジュール―[BIOS情報]の付加情報に正しくBIOS付加情報が表示されない場合があります。その場合、BIOS情報はデータビューアの[ESMMIB]―[BIOS]で確認してください。

**イーサネットボードの状態が異常と表示される**

→ 使用しない(ケーブルを接続しない)イーサネットアダプタについては、コントロールパネルの[ネットワーク接続]などで無効に設定してください。

なお、無効にするイーサネットアダプタでLANの二重化(AFT機能)の設定を行っている場合は、LANの二重化を解除してから無効の設定を行ってください。無効の設定を行っておらず、イーサネットアダプタにケーブルを接続していない場合、ESMPRO/ServerAgentではそのポートを故障(媒体なし)と判断し、データビューアの[FtServer]―[PCIモジュール]―[イーサネットボード]の状態色は赤(異常)、また統合ビューアのサーバの状態色も赤(異常)となります。

**Oracle製品とESMPRO/ServerAgentが共存している環境で、ESMPRO/ServerAgentが正しく動作しない**

→ Oracle製品をインストールすると、SNMP Serviceのスタートアップが「手動」に変更される場合があります。この場合は、設定を「自動」に戻した上で、Oracle製品の説明書に従って正しい設定を行ってください。不明点等は『NECオラクルレスポンスセンター』へお問い合わせください。

障害情報の採取

万一障害が起きた場合、次の方法でさまざまな障害発生時の情報を採取することができます。



- 以降で説明する障害情報の採取については、保守サービス会社の保守員から情報採取の依頼があったときのみ採取してください。
- 障害発生後に再起動されたとき、仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示されることがありますが、そのままシステムを起動してください。途中でリセットし、もう一度起動すると、障害情報が正しく採取できません。

イベントログの採取

Express5800/ftサーバに起きたさまざまな事象(イベント)のログを採取します。

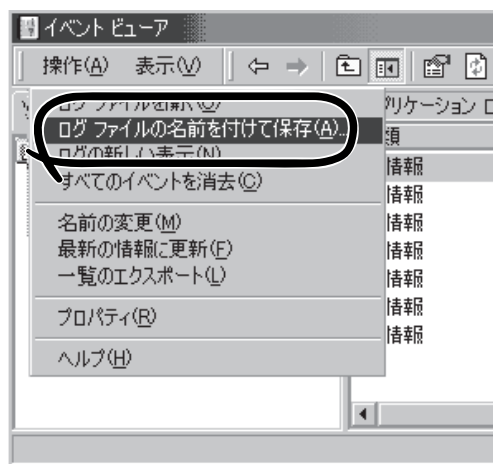


STOPエラーやシステムエラー、ストールが起きている場合はいったん再起動してから作業を始めます。

1. コントロールパネルから[管理ツール]—[イベントビューア]をクリックする。
2. 採取するログの種類を選択する。

[アプリケーション ログ]には起動していたアプリケーションに関連するイベントが記録されています。[セキュリティ ログ]にはセキュリティに関連するイベントが記録されています。[システム ログ]にはWindowsのシステム構成要素で発生したイベントが記録されています。

3. [操作]メニューの[ログファイルの名前を付けて保存]コマンドをクリックする。
4. [ファイル名]ボックスに保存するアーカイブログファイルの名前を入力する。
5. [ファイルの種類]リストボックスで保存するログファイルの形式を選択し、[OK]をクリックする。



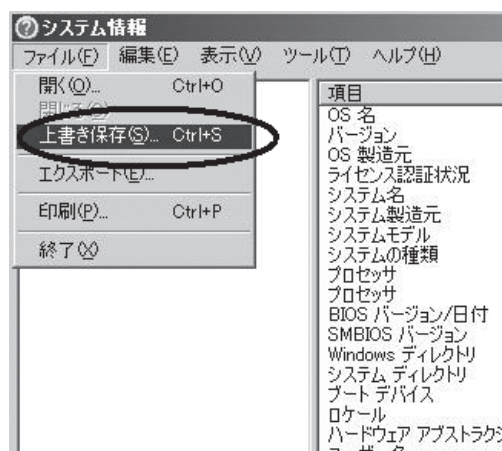
構成情報の採取

Express5800/ftサーバのハードウェア構成や内部設定情報などを採取します。
情報の採取には「診断プログラム」を使用します。



重要 STOPエラーやシステムエラー、ストールが起きている場合はいったん再起動してから作業を始めます。

1. スタートメニューの[すべてのプログラム]–[アクセサリ]–[システムツール]–[システム情報]をクリックする。
2. [ファイル]メニューの[上書き保存]をクリックする。
3. [ファイル名]ボックスに保存するファイルの名前を入力する。
[保存]をクリックする。



故障かな？と思ったときは

ワトソン博士の診断情報の採取

ワトソン博士を使って、アプリケーションエラーに関連する診断情報を採取します。
診断情報の保存先は任意で設定できます。

詳しくはスタートメニューの[ファイル名を指定して実行]で「drwtsn32.exe」で起動する
[Windows ワトソン博士]ダイアログボックスにある[ヘルプ]を参照してください。

メモリダンプの採取

障害が起きたときのメモリの内容をダンプし、採取します。ダンプをDATに保存した場合は、保存に利用したソフトウェアの名称(例：NTBackup)をラベルに記載しておいてください。診断情報の保存先は任意に設定できます。詳しくは別冊のユーザーズガイド(セットアップ編)の「メモリダンプ(デバッグ情報)の設定」(4-41ページ)を参照してください。



- 保守サービス会社の保守員と相談した上で採取してください。正常に動作しているときに操作するとシステムの運用に支障をきたすおそれがあります。
- 障害の発生後に再起動したときに仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。途中でリセットして起動し直すと、データを正しくダンプできない場合があります。

採取のための準備

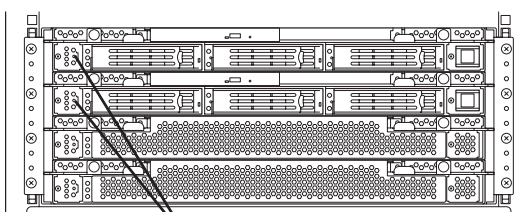
DUMPスイッチを押してダンプを実行した後にExpress5800/ftサーバをリセットできなくなる場合があります。この場合、強制シャットダウン(4-38ページ参照)でExpress5800/ftサーバを強制的にリセットしなければならなくなりますが、BIOSセットアップユーティリティ「SETUP」の「Security」メニューの「Power Switch Mask」を「Masked」に設定しておく、POWERスイッチの機能が無効になるため、強制シャットダウンができなくなります。万一の場合、強制シャットダウンでExpress5800/ftサーバをリセットできるように次の手順に従ってExpress5800/ftサーバの設定を変更しておいてください。

1. Express5800/ftサーバの電源をONにして、BIOSセットアップユーティリティ「SETUP」を起動する(4-2ページ参照)。
2. 「Security」メニューの「Power Switch Mask」を「UnMasked」に設定する。
3. 設定内容を保存して、SETUPを終了する。

メモリダンプの採取

障害が発生し、メモリダンプを採取したいときにDUMPスイッチを押してください。スイッチを押すときには金属製のピン(太めのゼムクリップを引き伸ばして代用可)をスイッチ穴に差し込んでスイッチを押します。

スイッチを押すと、メモリダンプは設定されている保存先に保存されます(CPUがストールした場合などではメモリダンプを採取できない場合があります)。



DUMPスイッチ



つま楊枝やプラスチックなど折れやすいものを使用しないでください。

IPMI情報のバックアップ

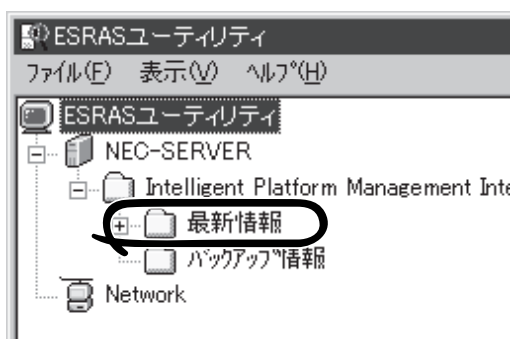
IPMI情報を採取します。情報を採取するためには、ESMPRO/ServerAgentがインストールされていなければなりません。

1. スタートメニューから[プログラム]—[ESMPRO ServerAgent]—[ESRASユーティリティ]を選ぶ。

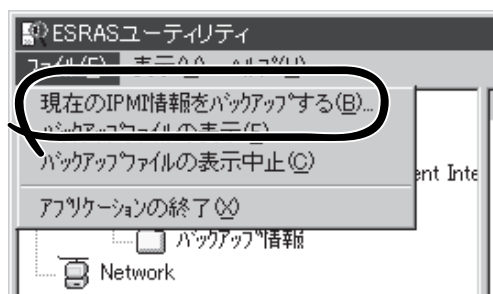
[ESRASユーティリティ]ウィンドウが表示されます。

2. ツリービューより[最新情報]を選択して、ローカルコンピュータの情報を取得する。

データが表示されれば取得ができたことになります。

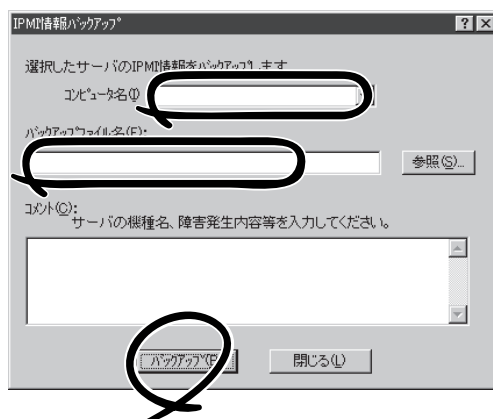


3. [ファイル]メニューから[現在のIPMI情報をバックアップする]をクリックする。



4. バックアップ対象のコンピュータ名を確認する。

5. 退避するバックアップファイル名と保存する場所を指定して[バックアップ]をクリックする。



故障かな?と思ったときは

～Memo～